京都女子大学図書館蔵『かながき萬葉集』影印

凡　例

一、本複製は、京都女子大学図書館蔵『かながき萬葉集』の写真版複製である。

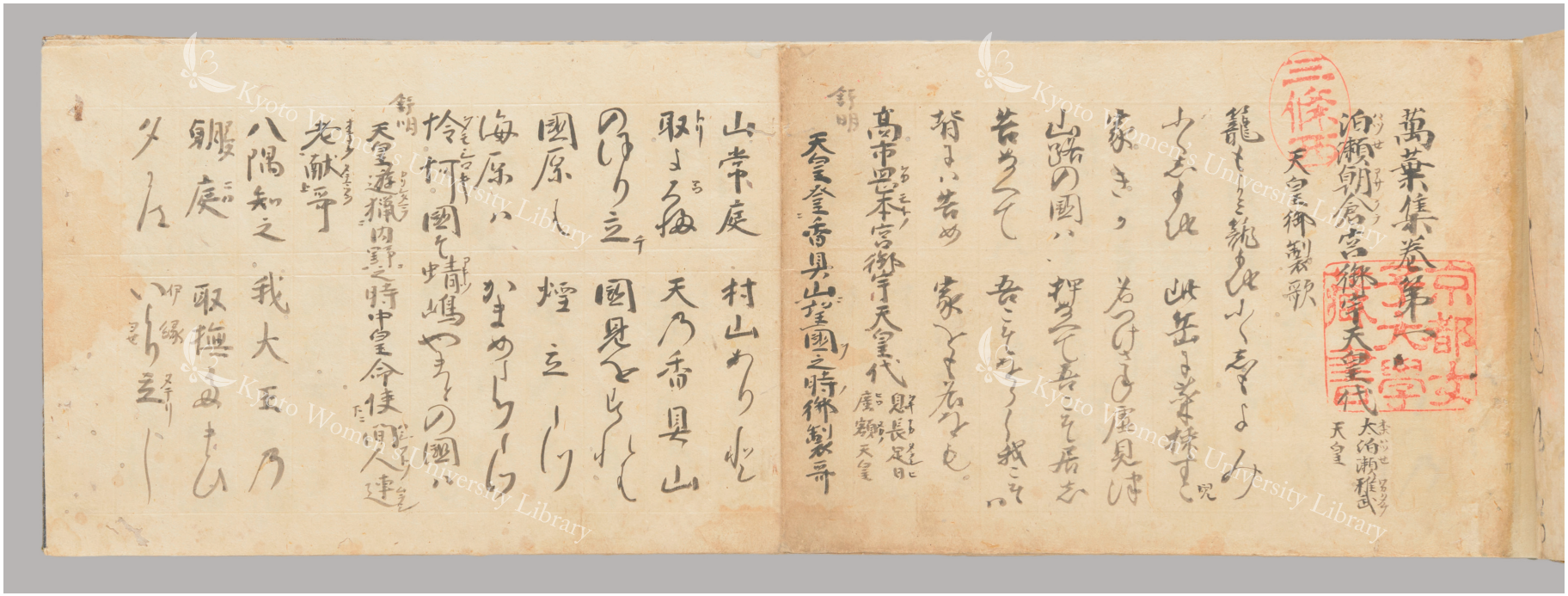
一、丁数および表・裏の別を小口下側の部分に示した。

一、本文の各歌の頭部に松下大三郎・渡辺文雄編『国歌大観』の『萬葉集』歌番号をつけた。

萬葉集
三四二
KN911
12
Ma48
1
Kyoto Women's University Library
Kyoto Women's University Library
Kyoto Women's University Library
Kyoto Women's University Library

貴重書
443号
京都女子大学図書館蔵書
第 202320 号
昭和 49.10.8 受入

一



萬葉集巻第一

泊瀬朝倉宮御宇天皇代 太泊瀬稚武天皇

天皇御製歌

籠もよ籠もよ小くしもよみ
小くしもよ此岳に菜摘す兒
家きゝ名つけまほ虚見つ
山路の國ハ押なべて吾こそ居し
告めてて吾こそなろし我こそハ
背にハ告め家をも名をも

舒明

高市岡本宮御宇天皇代 見長足日廣額天皇

天皇登香具山望國之時御製歌

二

山常庭村山あり此
取よろ海天乃香具山
のぼり立國見をしれば
國原ハ煙立しり
海原ハかまめしらしら
怜柯國を蜻嶋やまとの國ハ

舒明

天皇遊獵内野之時中皇命使間人連
老献歌

八隅知之我大王乃
朝庭取撫安まひ
夕ハ伊縁ハしり立し

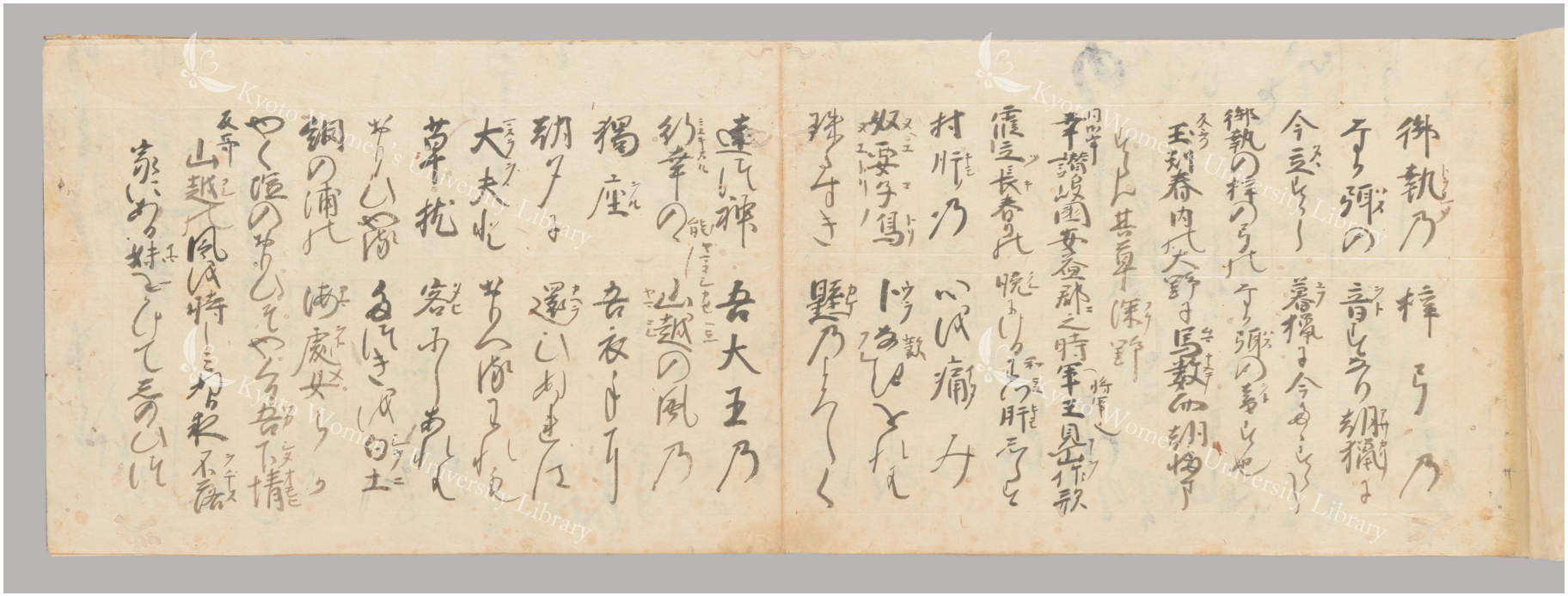
三

1オ

1ウ

京都女子大学 三條西
Kyoto Women's University Library

四　五　六



2オ　2ウ

一三

右検日本紀無幸於讃岐國亦
軍王未詳也但山上憶良大夫類聚
歌林曰記曰 天皇十一年己亥冬十二
月己巳朔壬午幸于伊豫温湯宮
一書曰是時宮前在二樹木此之二
樹斑鳩比米二鳥大集時勅多
挂稲穂而養之乃作歌云云若
疑從此便幸歟
中大兄 近江宮御宇天皇 三山歌一首
高山ハ 雲根火ヲ
耳梨と 相あらそひき

一四

神代より 如此 かくあらん
かゝりて 猶よありこそ
虚蟬も 嬬ヲ 爭あらそ
かくらしひき
反歌
高山と耳梨山とあひし時
立て見に来しいなび國は
渡津海乃豊旗雲に入りひ
今夜の月夜清明こそ 祈
近江大津宮御宇天皇代

一五

Kyoto Women's University Library

3オ

3ウ

一六

天皇 詔内大臣藤原朝臣競憐
春山万花之艶秋山千葉之
彩時額田王以歌判之歌
冬木成 春去来ま[illegible]
[illegible] 鳥も来ぬ
[illegible] 花も[illegible]
山[illegible] 入てもとらぬ
草深ミ とりてもそしら
秋山乃 木の葉見ては
黄葉とは 取てそしのふ
青きとは 置てそかなく

一七

[illegible]秋山そ吾は
額田王下近江國時作歌井戸
王即和歌
味酒の 三輪乃山
青丹吉 [illegible]の山乃
山際 いかゝ[illegible]
道の隈 いそ[illegible]
委曲も 見つゝゆかんと
[illegible] 見放むやまを
情なく雲の隠障[illegible]
反[illegible]

Kyoto Women's University Library

4オ

4ウ

三輪山を然もかくすか雲たにも
心あらなんかくさふへしや

明日香清御原天皇代　天武天皇　御製

三吉野の　耳我山嶺に
時無そ　雲ハふりける
間なくそ　雨ハふりける
其雪の　時なきかこと
其雨の　ひまなきかこと
隈もおちす思ひつゝそ来る其山道を

過近江荒都時　人麿作

玉たすき　畝火の山の

橿

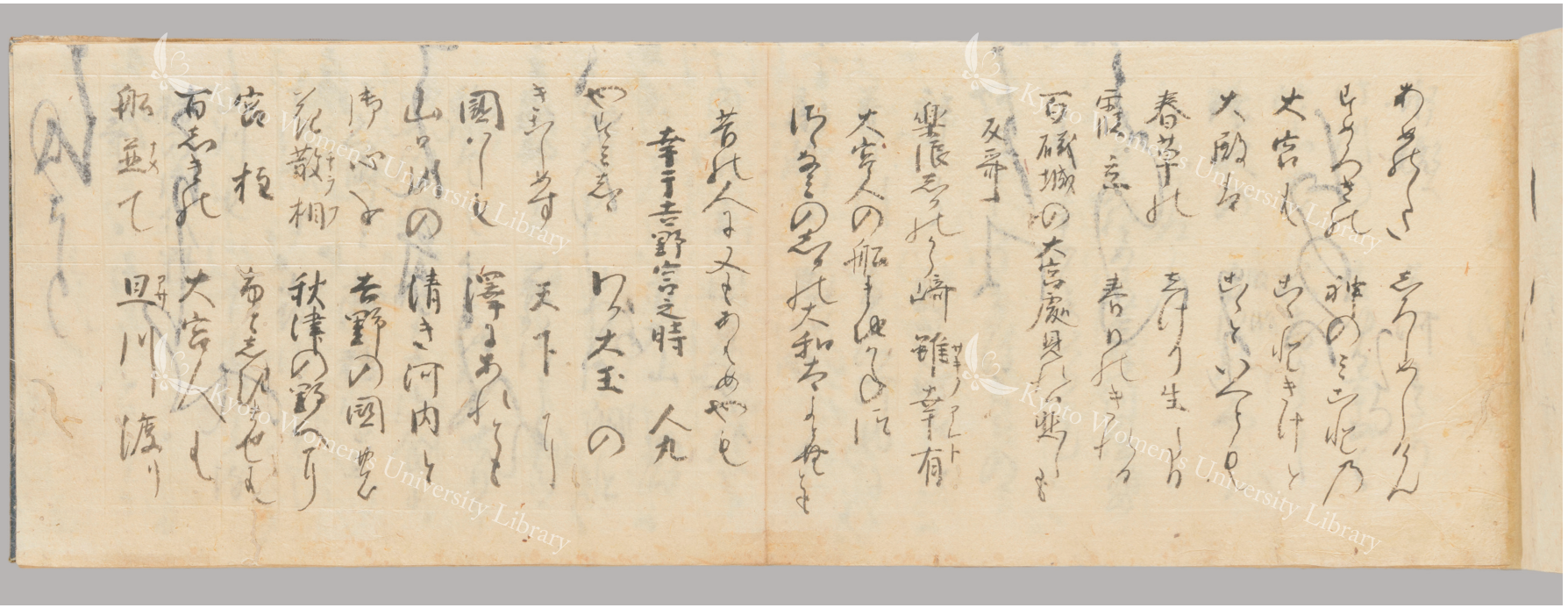
橿原の　ひしりの御世ゆ
あれまし丶　神のあれます
樛木の　いや継嗣
天下　しろしめし丶を
天満　倭をおきて
あをによし　なら山をこえ
いかさまに　おほしめしてか
あまさかる　夷にはあれと
石走る　淡海の国の
楽浪の　大津の宮に
天下　しろしめしけん

Kyoto Women's University Library

三〇

三一

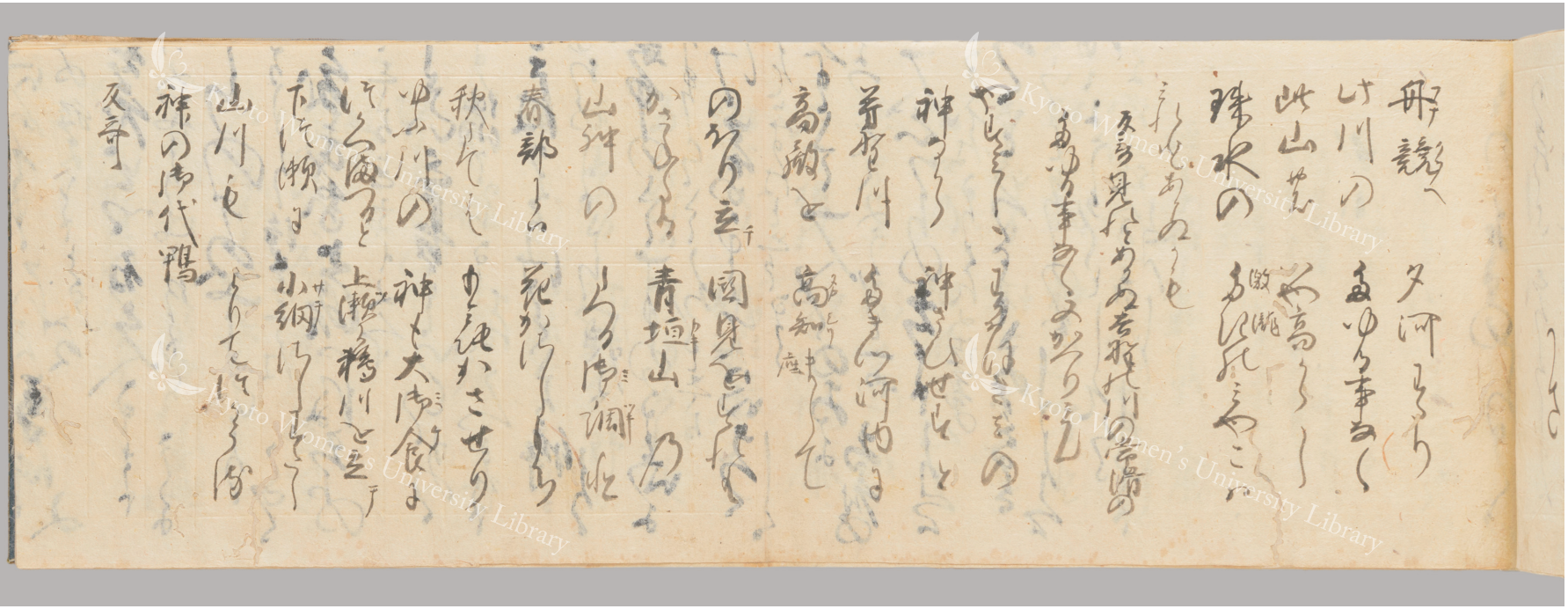
三六



Kyoto Women's University Library

三七

三八



三九

山川もよりて作る神(長柄)
ぞ
多き(き)の河内(かふち)に船出(ふなで)する
右日本紀三年六月天皇之幸吉野宮
八月幸 冬十月幸 廿四年
五年四月幸 四月幸 未詳知何月
従駕作歌

四五

輕皇子宿于安騎野時 人麿
八隅知(やすみしし)吾大王(わごおほきみ)高照日(たかてるひ)之(の)
神長柄(かみながら) 神(かむ)さびせ
ずもあらく
来(こ)し香(か)を
陽炎(かぎろひ)乃(の) 立(た)つ
見(み)えて
阿騎乃(あきの)野(の)
宇陀(うだ)の
野(の)
古(ふる)
思(おも)ひ
出(で)
つつ
石(いし)の
根(ね)
禁(こ)
樹(き)
枉(まが)
廉(かど)

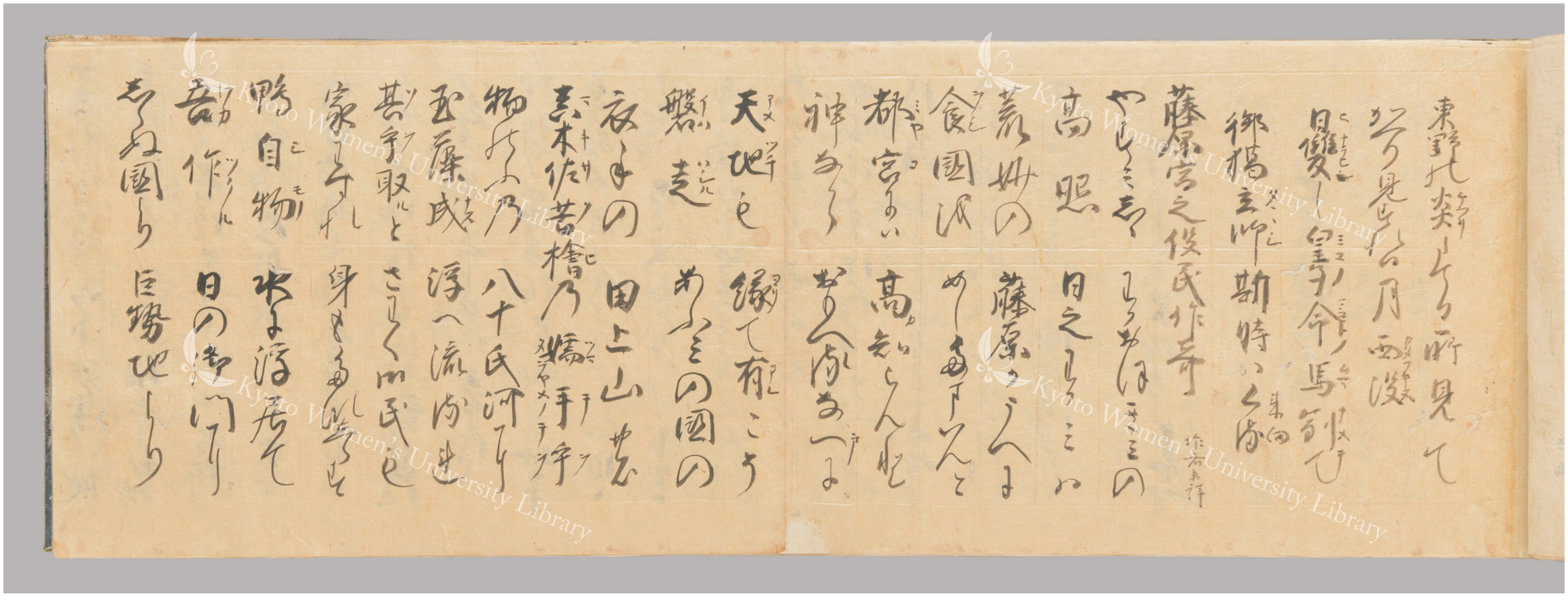
四六

坂鳥乃(さとりの) 朝越(あさこえ)座(ま)して
玉(たま)かぎる 夕(ゆふ)さりくれば
み雪(ゆき)ふる 阿騎(あき)の大野(おほの)は
旅(たび)寝(ね)かも
思(おも)ひ
やるらむ
古(ふる)
妹(いも)が
手(て)
枕(まく)
草(くさ)
根(ね)
多(おほ)
寒(さむ)
夜(よ)
毛(も)
ひとりし
て

四七

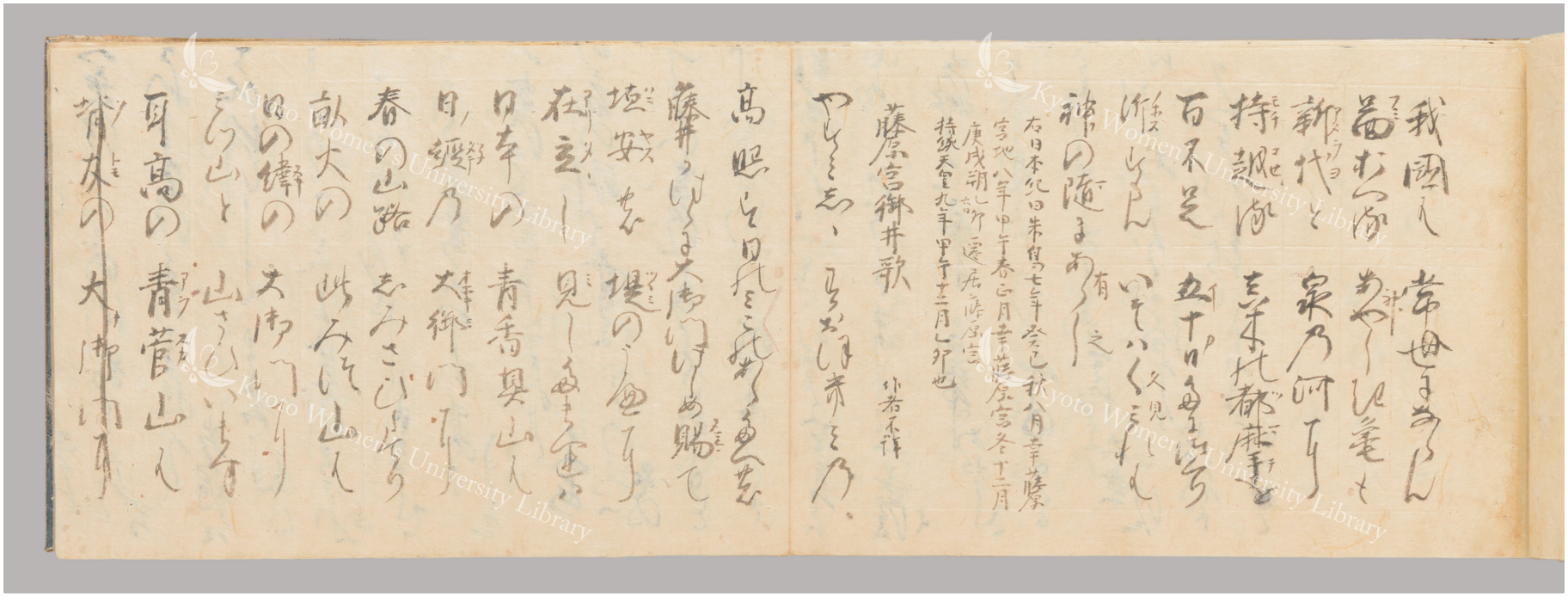
短歌
阿騎の野に宿る旅人(たびと)うちなびき
寐(い)も寝(ね)らめやも古(ふる)思(おも)ふに
真草苅(まくさかる)荒野(あらの)にはあれど黄葉(もみぢば)過(すぎ)
去(いに)し君(きみ)が形見(かたみ)とそ来(こ)し

四八
四九
五〇



Kyoto Women's University Library

9オ
9ウ

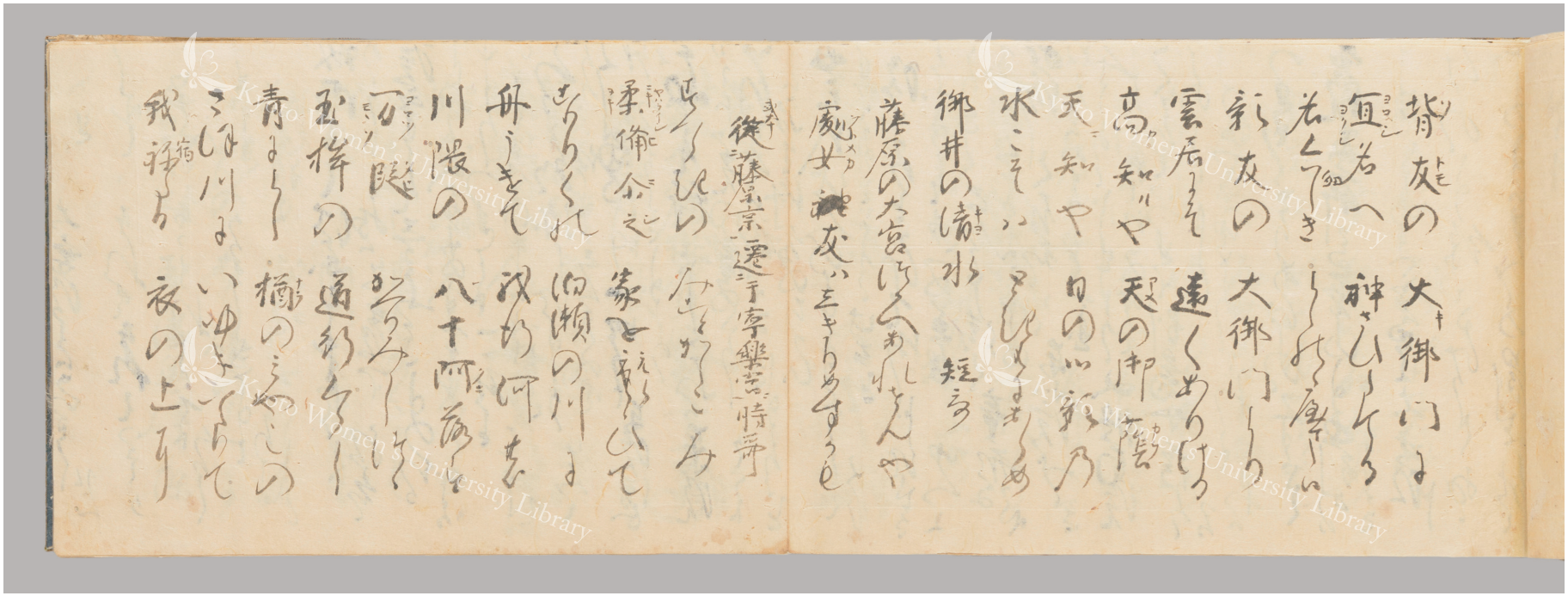


10
ウ

10
オ

Kyoto Women's University Library

五三



背友の大御門に
宜名へ神ひらける
名くつき　しられ屋に
新友の大御門より
雲居にそ遠くありける
高知や天の御蔭
天知や日の山新乃
水こそは　とはしまおもめ
御井の清水　短歌
藤原の大宮にあれしをんや
處女　友は三きりめすらも

七九

從藤原京遷于寧樂宮時歌
[illegible]
柔備尓之　家を[illegible]
[illegible]
舟うきて　泊瀬の川に
川隈の　八十阿[illegible]
万隈　[illegible]
玉桙の　道行[illegible]
青[illegible]　楢の[illegible]
[illegible]川に　いゆきてりて
我祈[illegible]　夜の上り

Kyoto Women's University Library

11オ

11ウ

朝月夜　さやかに見れは
栲の穂に　夜の霜ふり
磐床と　川の氷こほり
さむき夜を　やすむことなく
かよひつつ　つくれる家に
千代まてに　いませ大君よ
我もかよはむ
反哥
青によし　奈良の家には　万代に
我もかよはむ　わするとおもふな

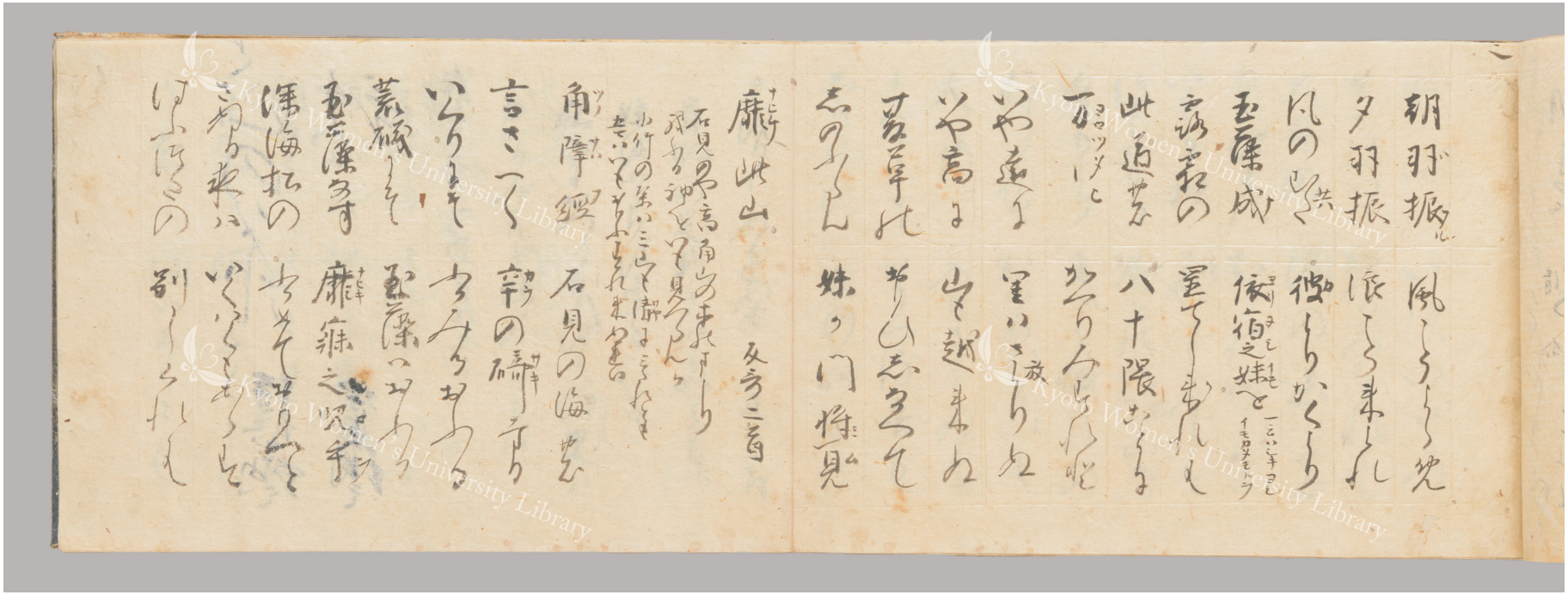
第二
柿本人麿従石見国別妻上来時
哥二首　并短歌
石見乃海　角浦廻と
浦無と　人こそ見らめ
潟無と　人こそ見らめ
よしゑやし　浦はなくとも
よしゑやし　潟はなくとも
鯨魚とり　海辺をさして
和多豆の　ありそのうへに
香青生　玉藻奥津藻

Kyoto Women's University Library

一三二

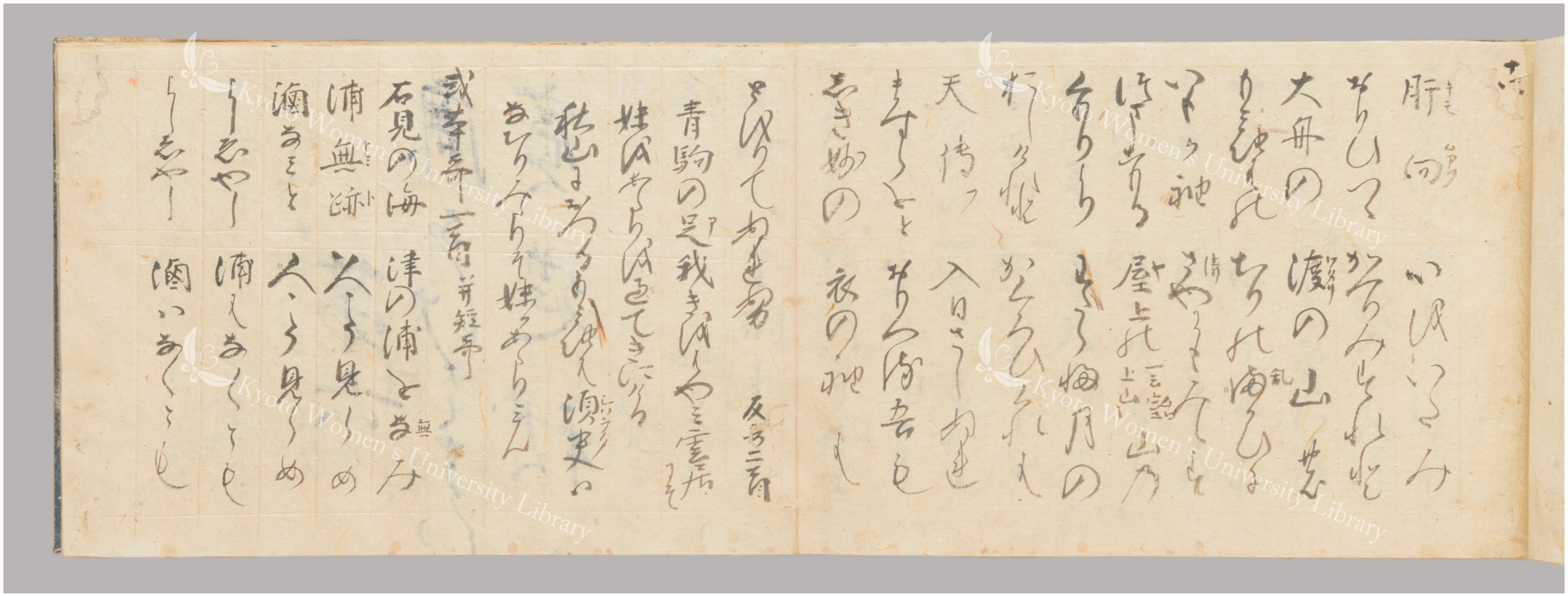
一三三

一三五



13
オ

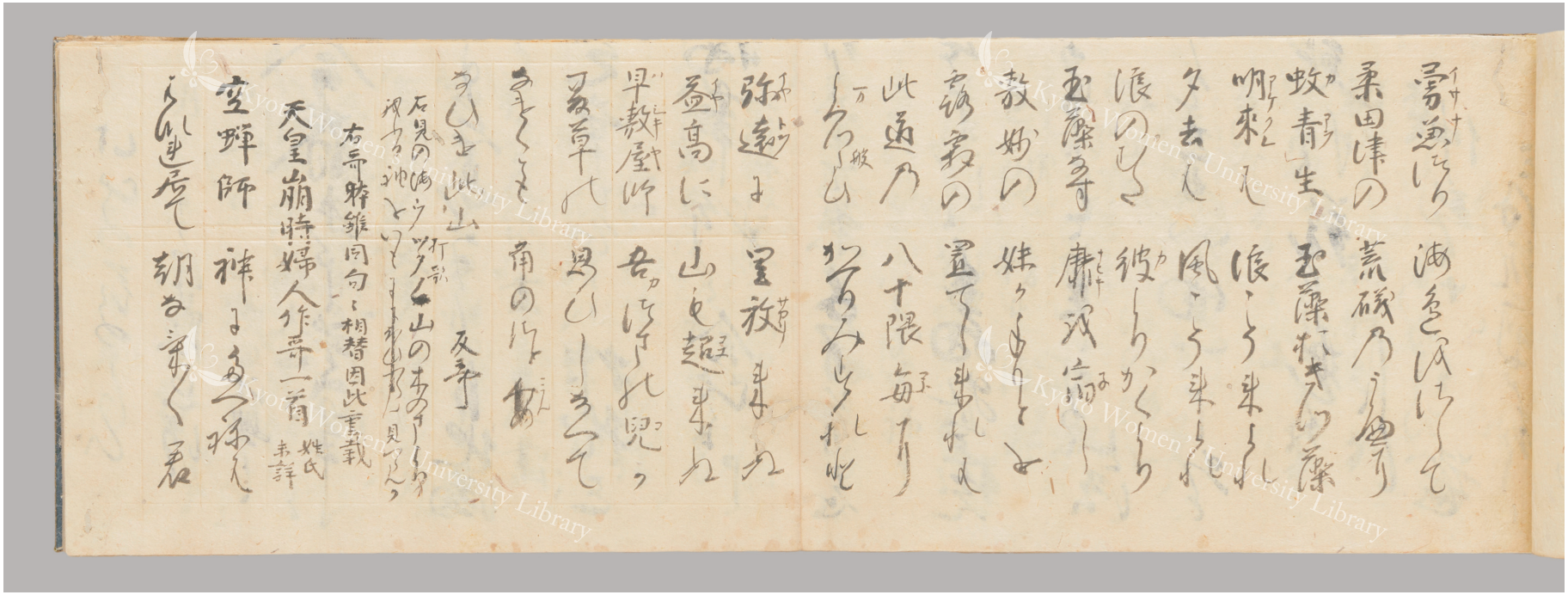
13
ウ



一三六

一三七

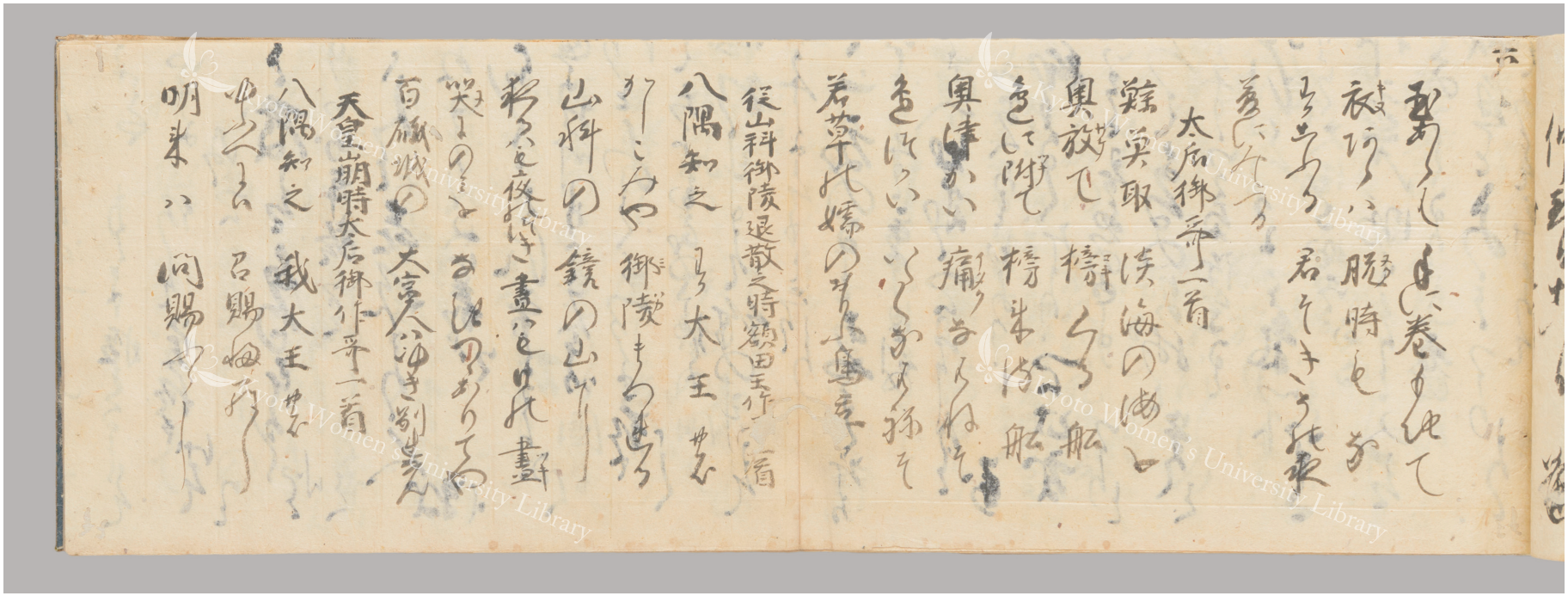
一三八



一五三

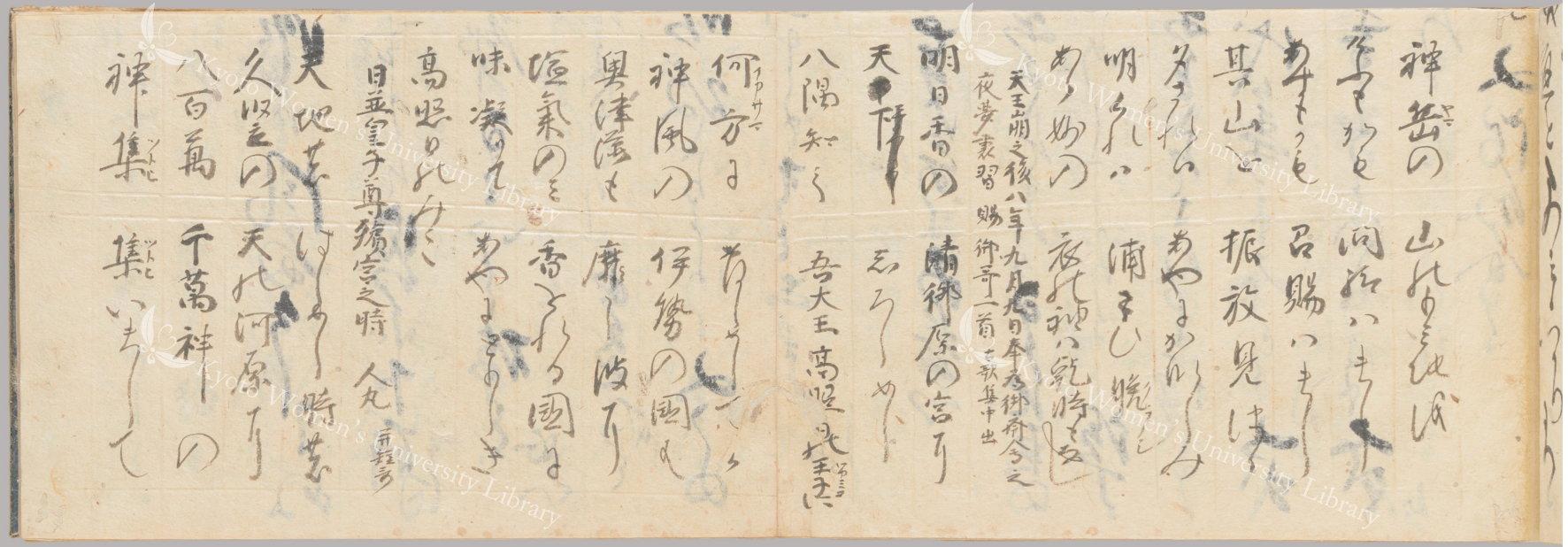
一五五

一五九



16オ

16ウ



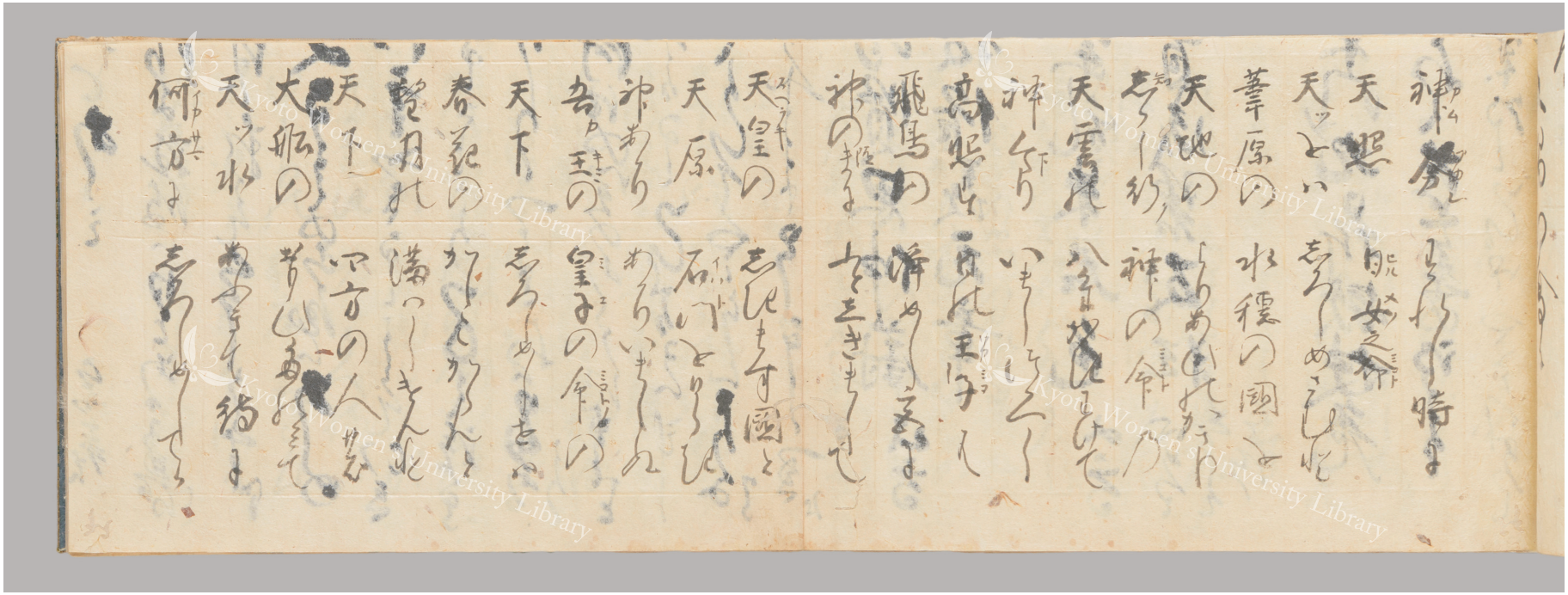
神無の　山もみぢ葉や　散るらむ
今日ぞ初めて　時雨ふるなり

呂賜いもと　振放見れば
甚山も　木の葉色づき　散りにけるかも

明日香の　清御原の宮に
天下　知らしめす
八隅知る　吾大王　高照らす　日の皇子
天王崩之後八年九月九日奉為御斎会之夜夢裏習賜御哥一首　古歌集中出

何方よ　吾が来つる道
神風の　伊勢の国も
奥津藻も　靡き依りて
宇治の川瀬の　清けくも
味凝りて　あやにともしき
高照らす　日の皇子
日並皇子尊殯宮之時　人丸　短歌

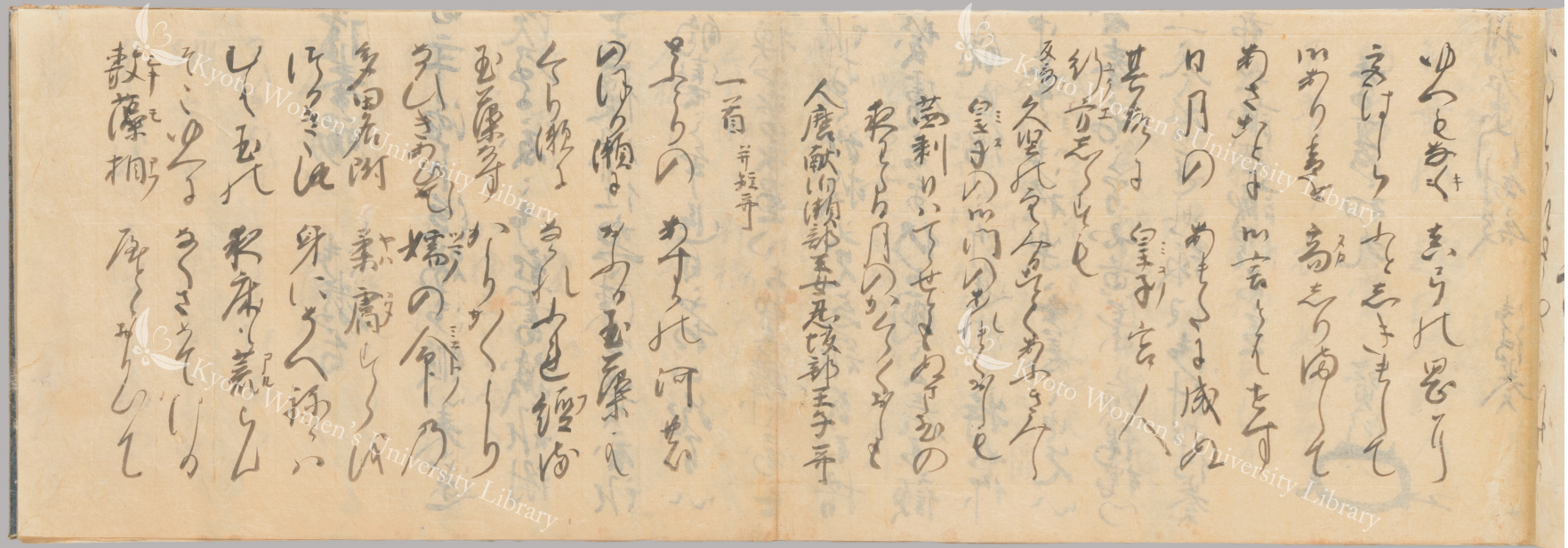
天地と　ともに久しく　時並に
満ちゐるべしと　思ひけむかも
久堅の　天の河原に
八百萬　千萬神の
神集ひ　集ひいまして



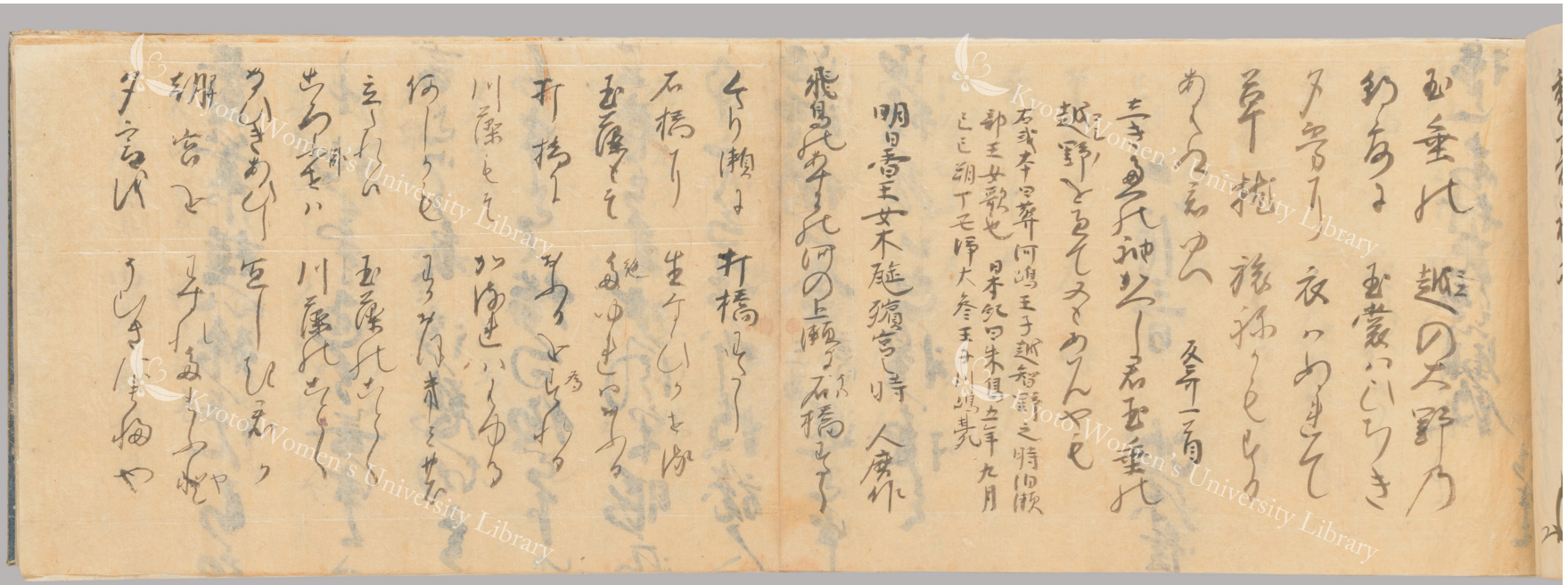
一六八

一六九

一九四

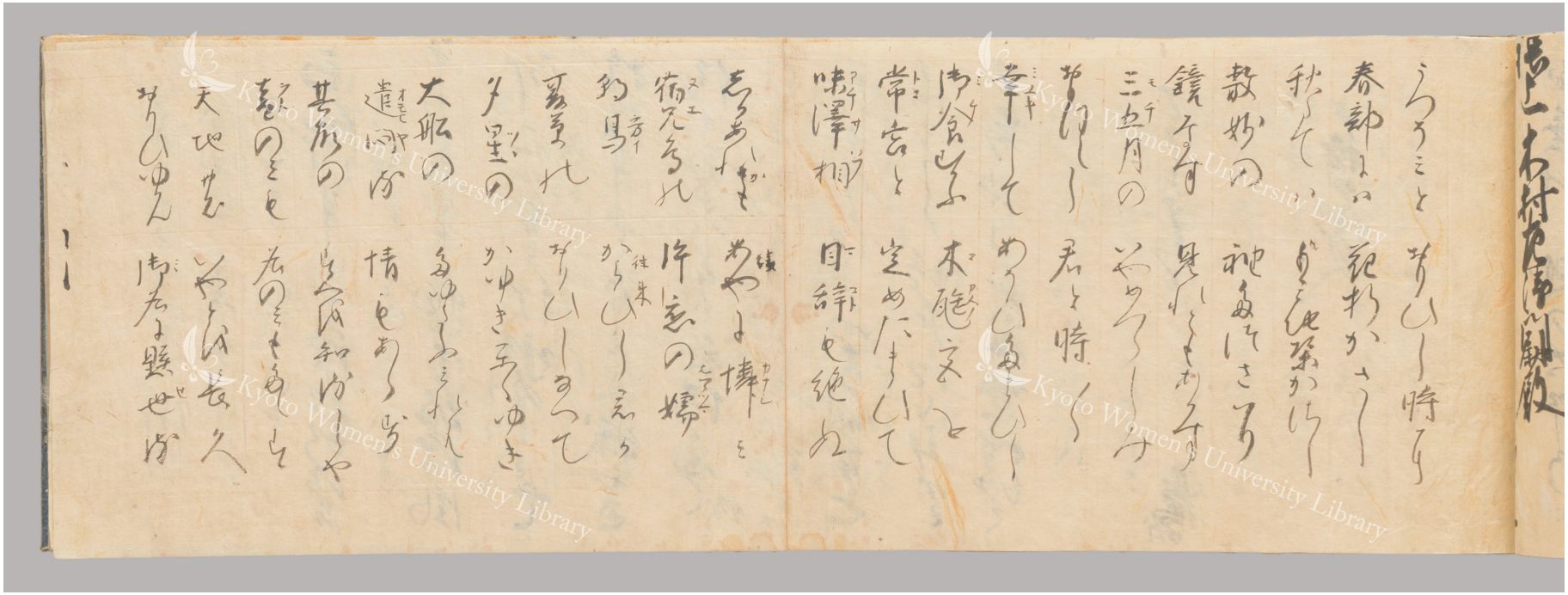


Kyoto Women's University Library



玉垂れ　越の大野乃
初春よ　玉裳ゐしらき
多雪ふり　衣のあまそ
草枕　旅寝もしらす
あくる夜乃　多年一首
さき乃ふる神乃　石玉垂れ
越野とをそみそめんやも
右或本云幸河嶋王子越智願之時但願
都王女歌也　日本紀曰朱鳥六年九月
己巳朔丁亡帝大斂于川嶋皇

明日香王女木槻嶺宮之時　人麻呂
飛鳥乃　甘樫乃河の上乃　石橋も
今り頼よ　打橋
石橋ふり　生ゑしりをゐ
玉藻もそ　絶ゆまなくある
打橋　渡す心乃
川藻もそ　如是依来
ふりしくも　雪乃
立ふれる　玉藻乃如
ふりしきあれや　雪しまし
間　なくしふれる
明日香乃　清御原乃宮を
天乃御蔭　日乃御蔭と
神ながら　神さびせすや
高知ます　布当乃宮は
あらたまの　年乃経ゆけば
立ち変る　月乃重なれば
いや日異に　栄ゆる時に
あらねとも　雪乃ふれば
見る毎に　いや常しきて
古思ほゆ



一九七

明日香川　万代までか
（甘南備山）
しがらみわたる　ふるさとの
形見の山も　春雨の
春ふかみゆく　ころとなり
千とせの水の　花のあやも
春ふかみゆく　ころとなり

一九八

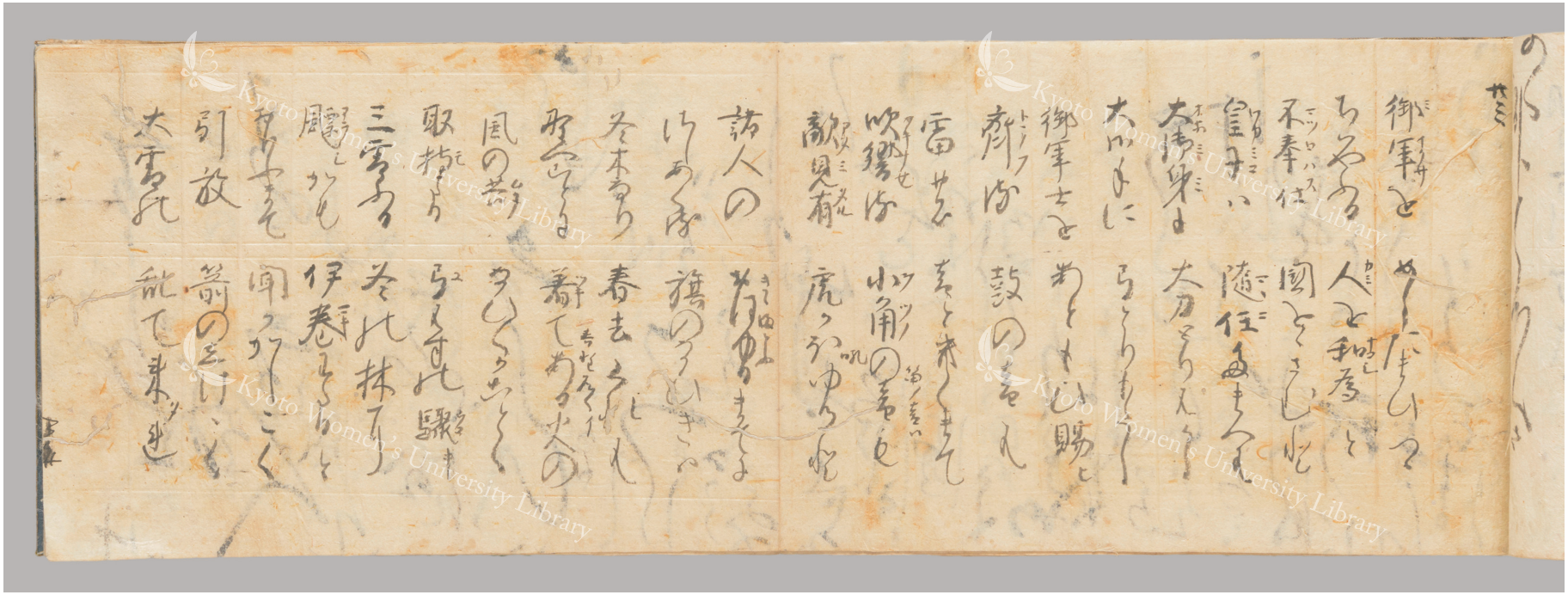
高市皇子尊城上殯宮之時
柿本朝臣人丸

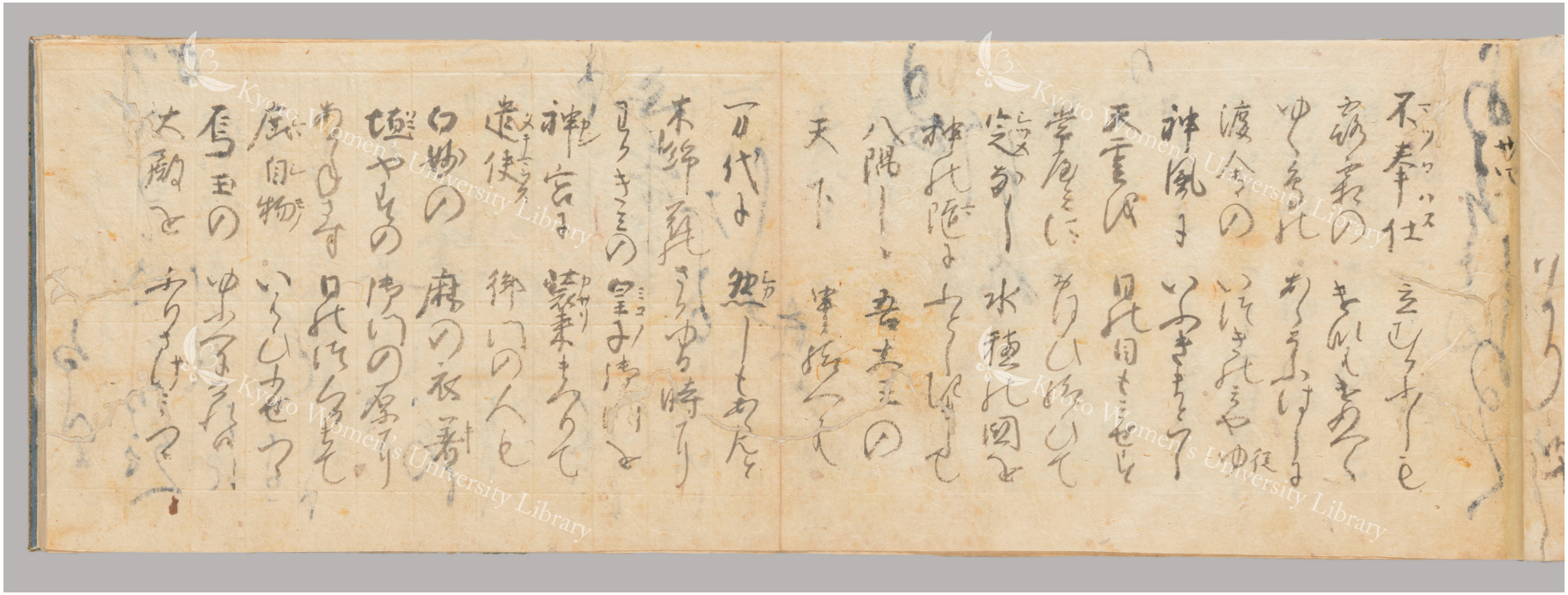
かきもとのあそんひとまる

あまくもの　よそにのみして
思ひつつ　ぬるよしもなき
（真袖）
妹が袖かも

一九九

久堅の　天ゆ神の
（言）
こと　天下しらして
神さびに　磐隠ります
八隅しし　我大君の
（聞）
きこし食す　国のまほらそ
（国）
もしも　不破山越えて
（青）
あをによし　奈良の山道を
（妹）
いもとわれ　手携はりて
（泣）
なきつつも　我越えゆけば
（思）
おもひ　過ぎにし　人に
（逢）
あへるかも

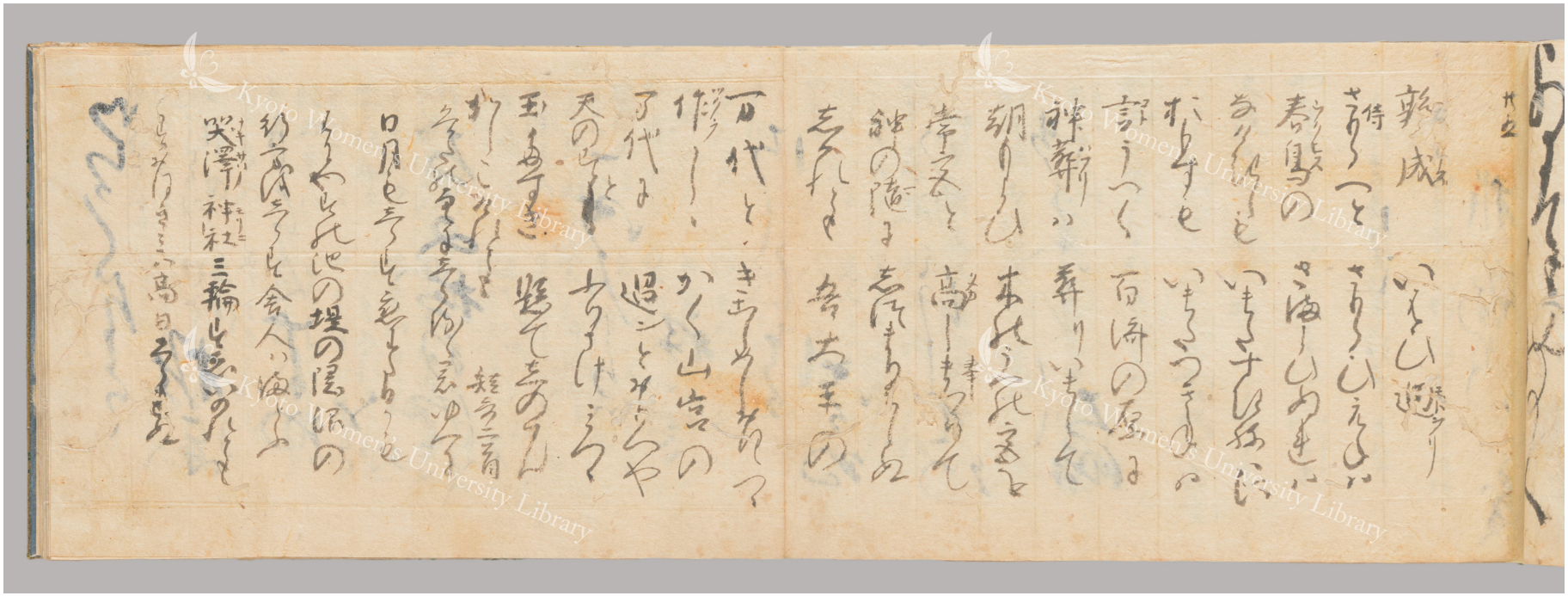




二〇〇

二〇一

二〇二

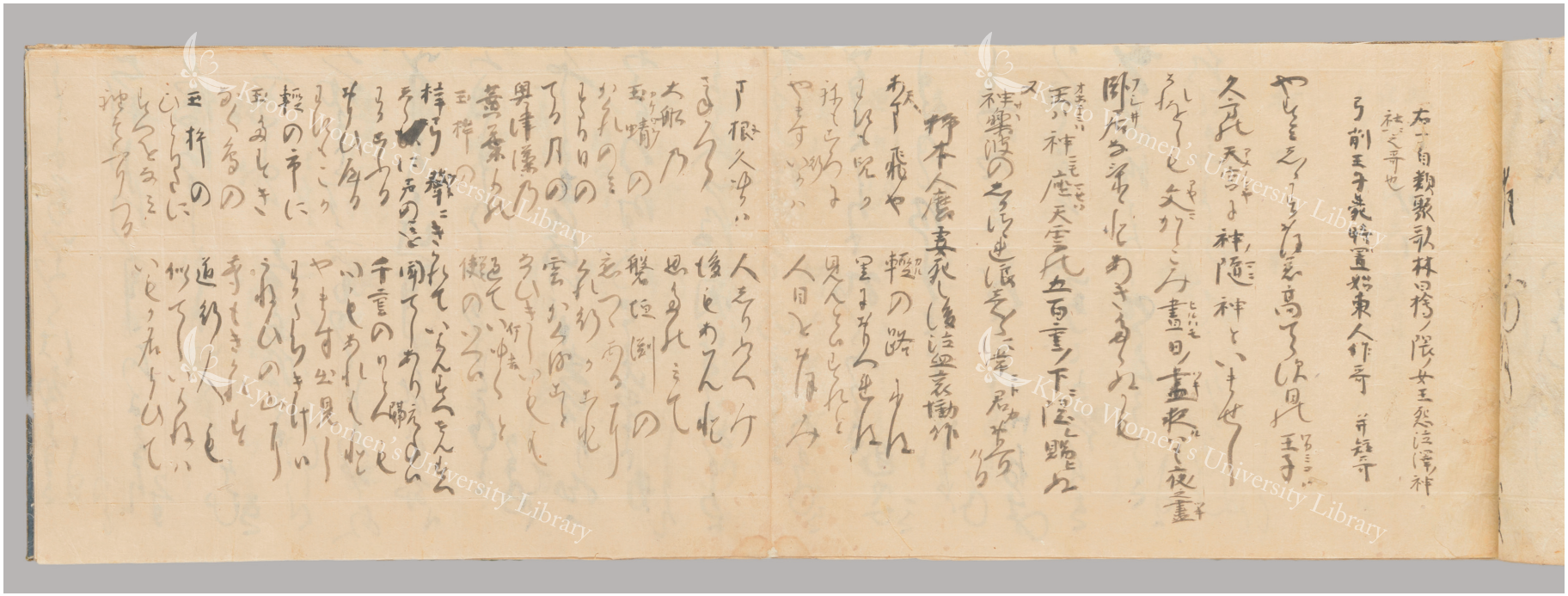


二〇四

二〇五

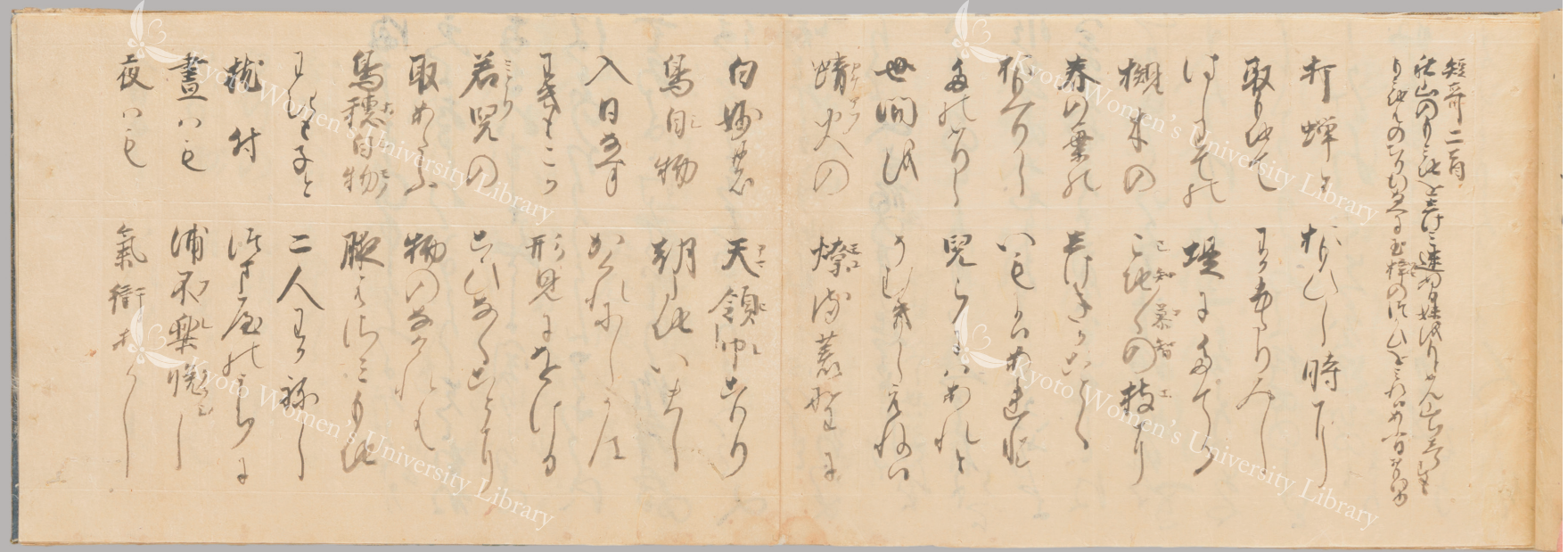
二〇六

二〇七



Kyoto Women's University Library

二〇八
二〇九
二一〇



Kyoto Women's University Library

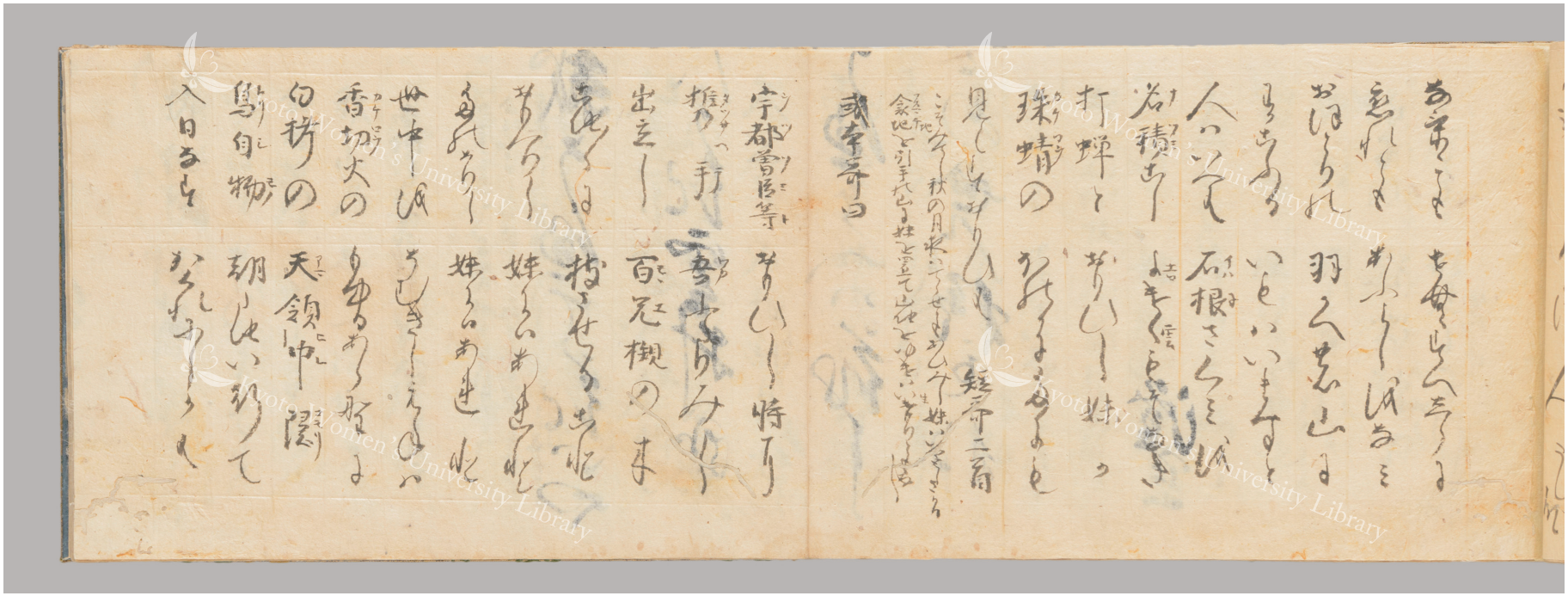
27
オ

27
ウ

二一一

二一二

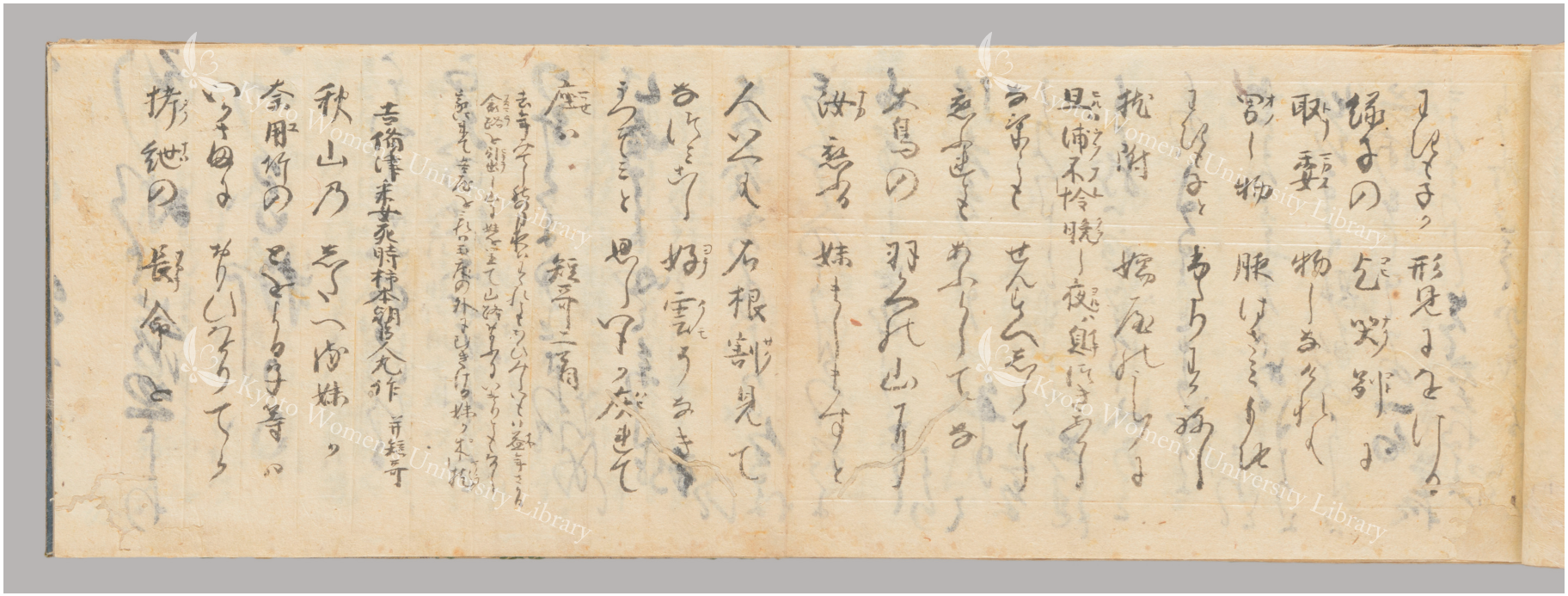
二一三



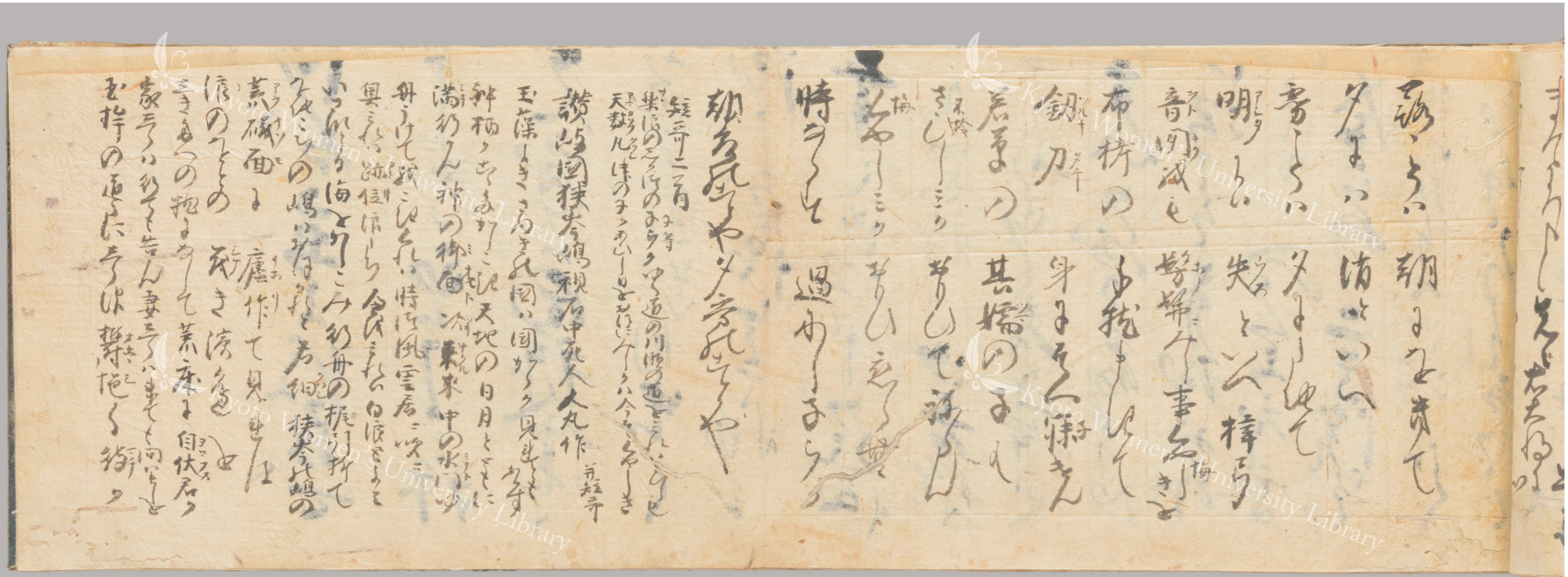
28
オ

28
ウ

二一四
二一五
二一六
二一七

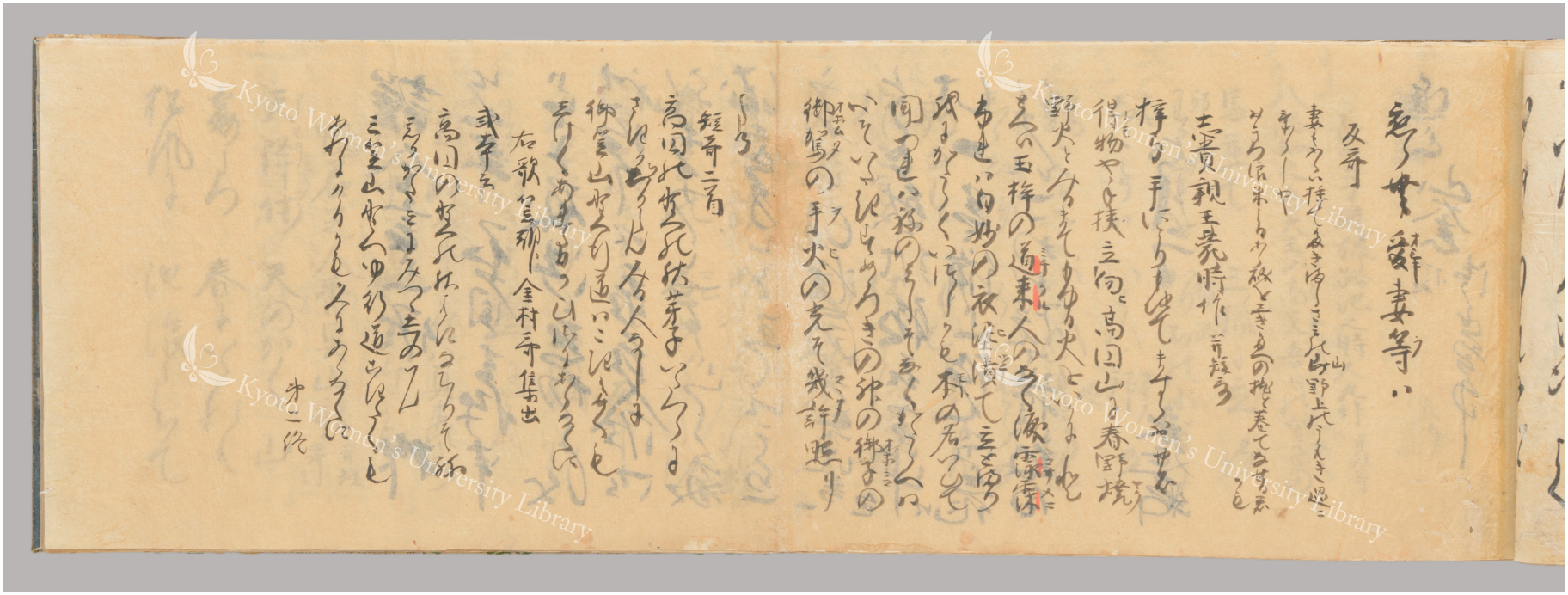


二一八
二一九
二二〇



Kyoto Women's University Library

二二一
二二二
二三〇
二三一
二三二
二三三
二三四



Kyoto Women's University Library

二三九

第三

長皇子遊猟路池之時人丸作 并短哥

八隅知之 吾大王乃 高光 吾日皇子乃
馬並而 三獵立 流
水乃 音乃清久 原乃 茂美乎
十六 見乍座而 大御心乎
鴨自物 水陸 奥 所由
辱 尊 時 見 物
敷座 波 思 名 石 尊 乎
縦 畏 見 者 神 社 乎
天 雲 隠 奴

二四〇

反哥

安騎野尓 宿旅 尓 打靡 寸 草 尓 毛 荒 有 鹿 尓 毛 有 哉 吾 大王 乃 宿 座 野 之 草 深 香 聞

二四一

反哥

八隅知之 吾大王乃 高光 吾日皇子乃 馬並而 三獵立 流 水乃 音乃清久 原乃 茂美乎 見乍座而 大御心乎 鴨自物 水陸 奥 所由 辱 尊 時 見 物 敷座 波 思 名 石 尊 乎 縦 畏 見 者 神 社 乎 天 雲 隠 奴

二五七

反哥

安騎野尓 宿旅 尓 打靡 寸 草 尓 毛 荒 有 鹿 尓 毛 有 哉 吾 大王 乃 宿 座 野 之 草 深 香 聞

Kyoto Women's University Library

二五八

梅花　来暁発
興をそふ　鴨妻よりそ
多津ゑに　味村さそふ風
百磯城の　大宮人も
避りそく　梅舟もとめ
梅枝も　折りかざしつゝ
今日暮ぬ　又手二首

二五九

人不絶　雪ふる船の
誉をそふ　何時神さひしより香具山の
鉾椙の　苔生まそ

二六〇

天降就　神の香具山
しるしき　春さりそくれは
梅花　木の暗茂
松風　池波風
多都多志　梅しる動
興をそふ　鴨妻よりそ
百式の　大宮人の
標梅の舟

筆捨もそくそ
こゝろとゝめて

右人麻呂歌集之梅花作

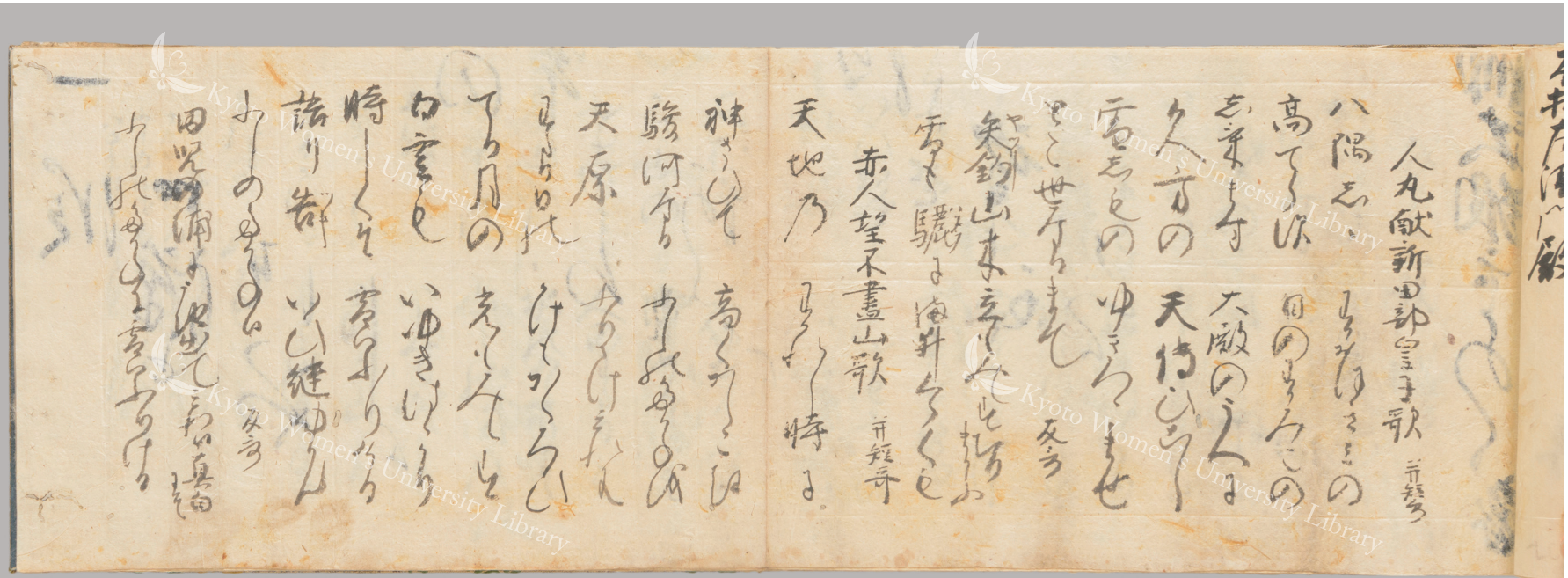
Kyoto Women's University Library

二六一

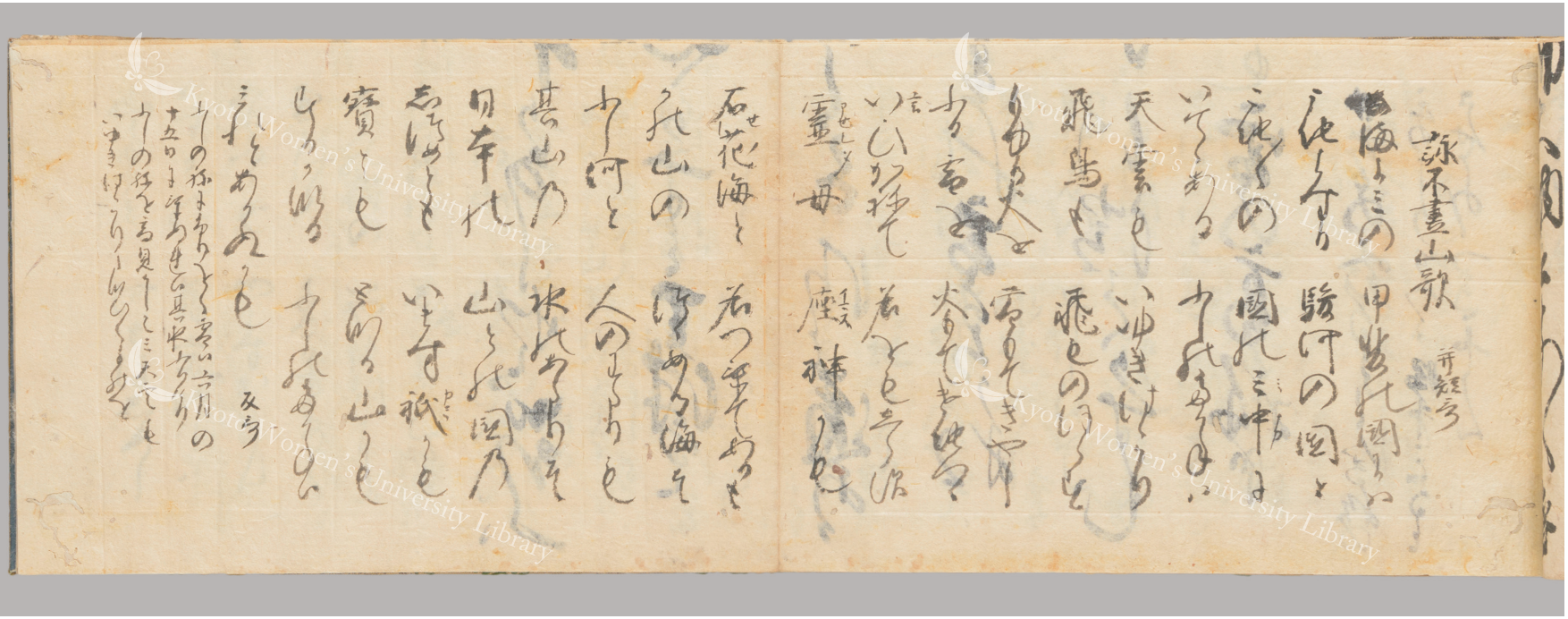
二六二

三一七

三一八

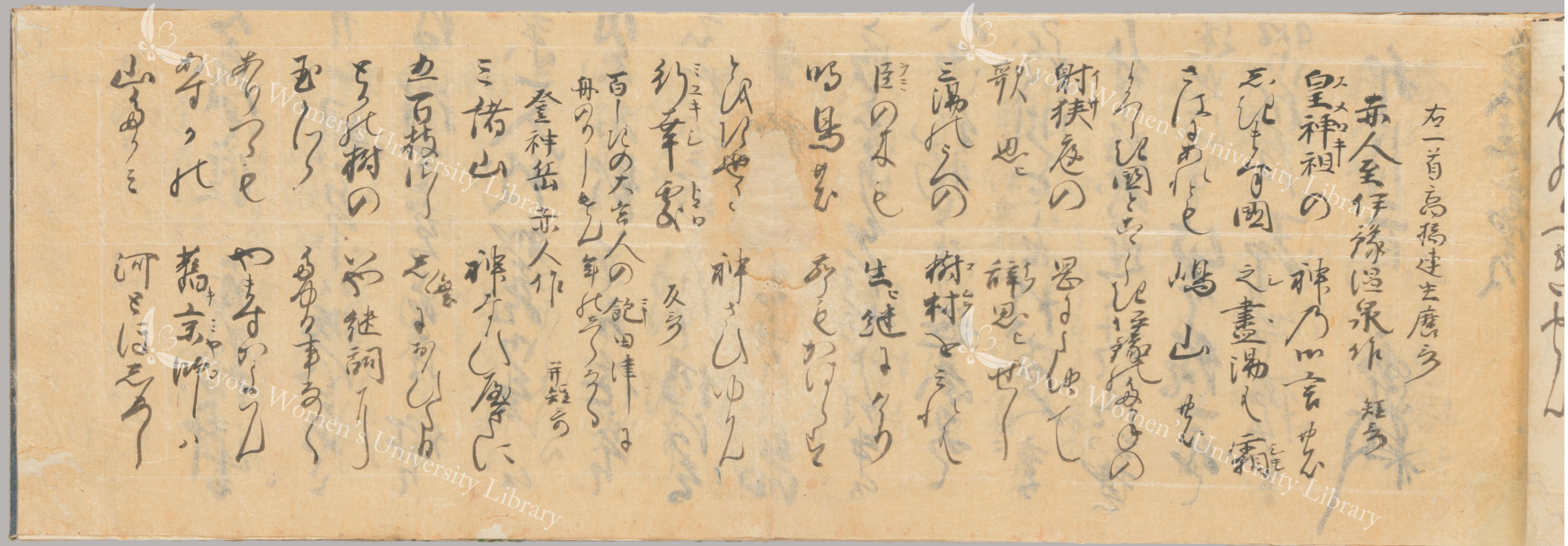


三一九



三二〇

三二一



三二一二

右一首高橋連生麿之

赤人至伊豫温泉作　短歌

皇神祖の　神乃水宮　[illegible]

[illegible]　之盡湯も　霜

[illegible]　嶋山　[illegible]

[illegible]

射狭庭の　思ふ[illegible]

歌思ヒ　辭思ヒ　せし

三湯の人の　樹村を　[illegible]

臣の女も　生ヒ継ふ　[illegible]

明馬　[illegible]

[illegible]　神さ[illegible]

紀幸　反歌

三二一三

百しきの大宮人の飽田津に

舟のりしせん　年の[illegible]

登神岳　赤人作　并短歌

三二一四

三諸山　神[illegible]

五百枝[illegible]

[illegible]樹の　[illegible]継詞[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

Kyoto Women's University Library

36ウ

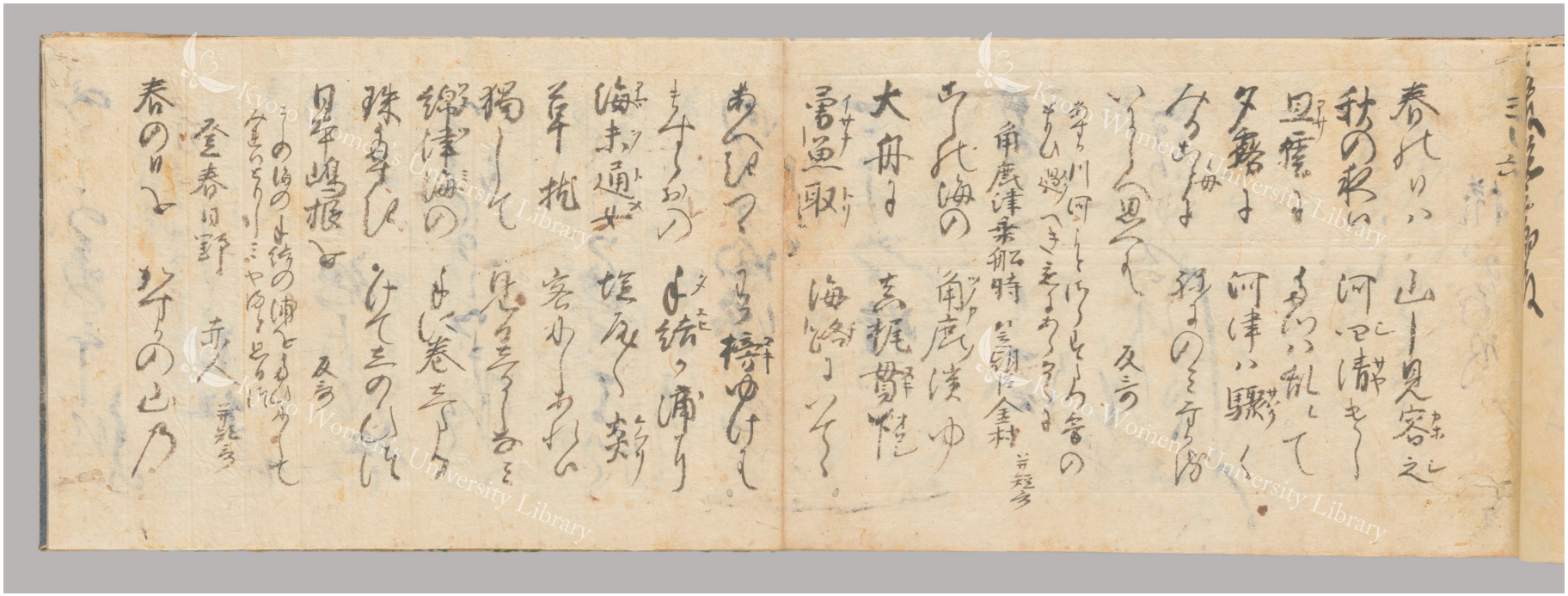
36オ

三二五

三六六

三六七

三七二



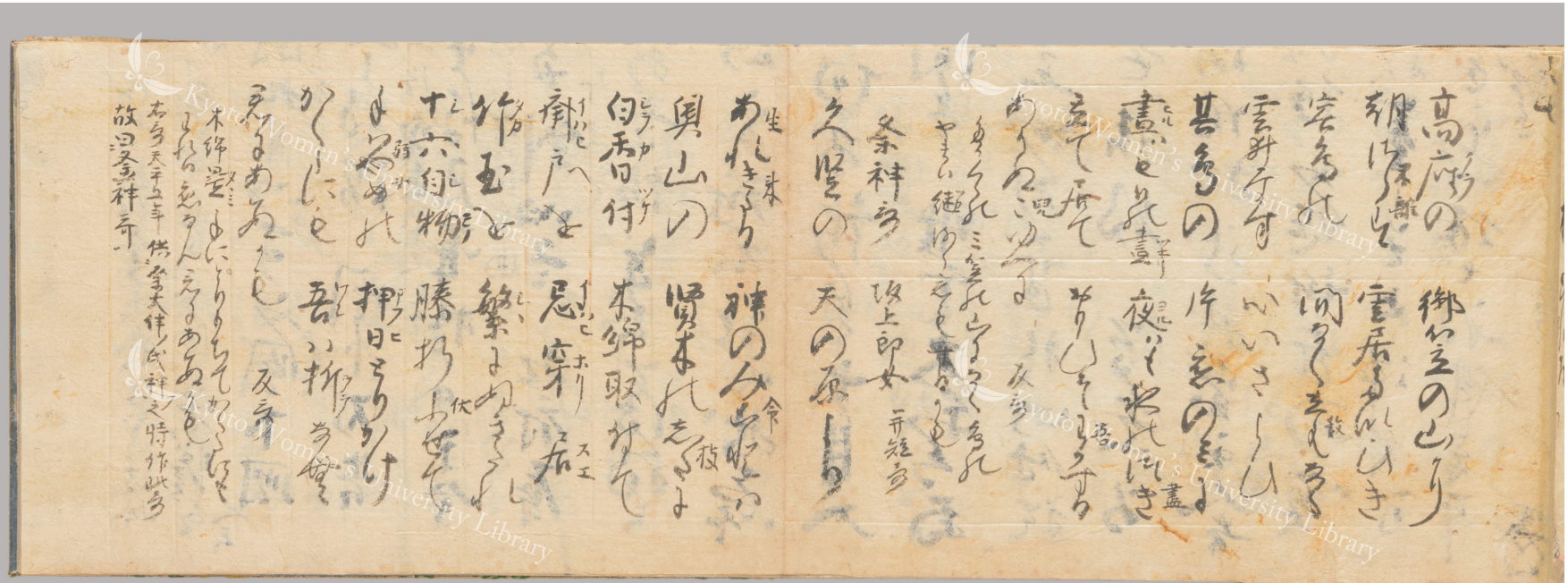
37オ

37ウ

三七三

三七九

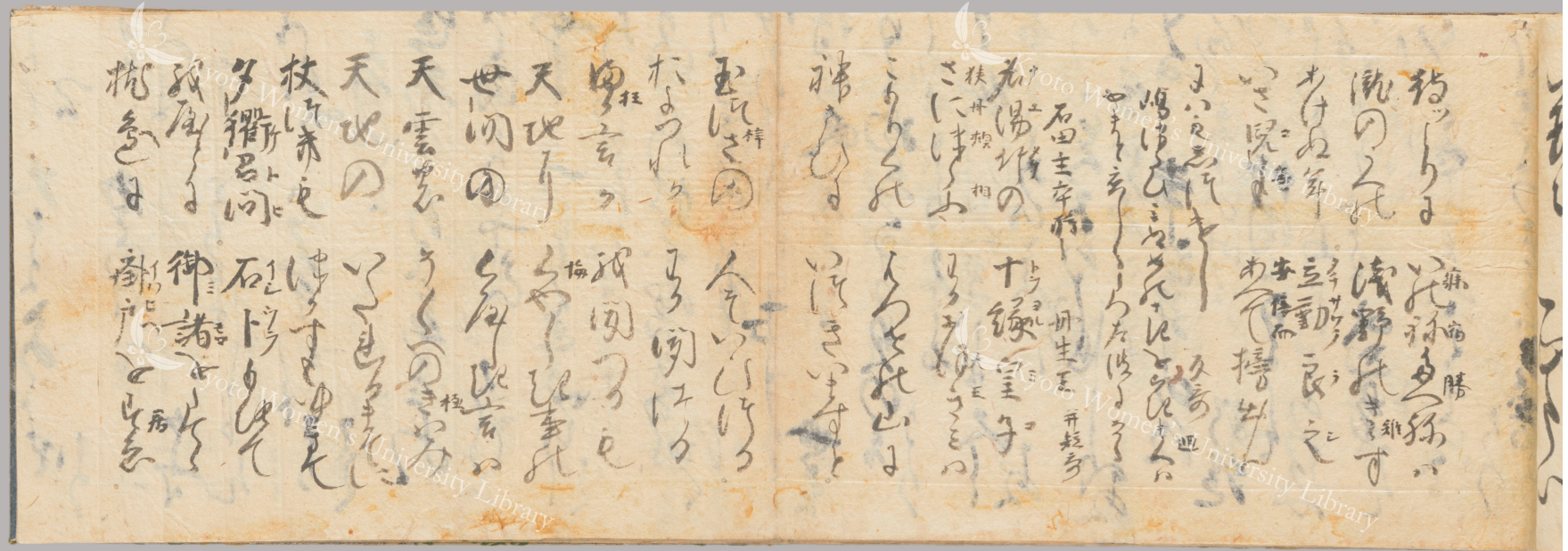
三八〇

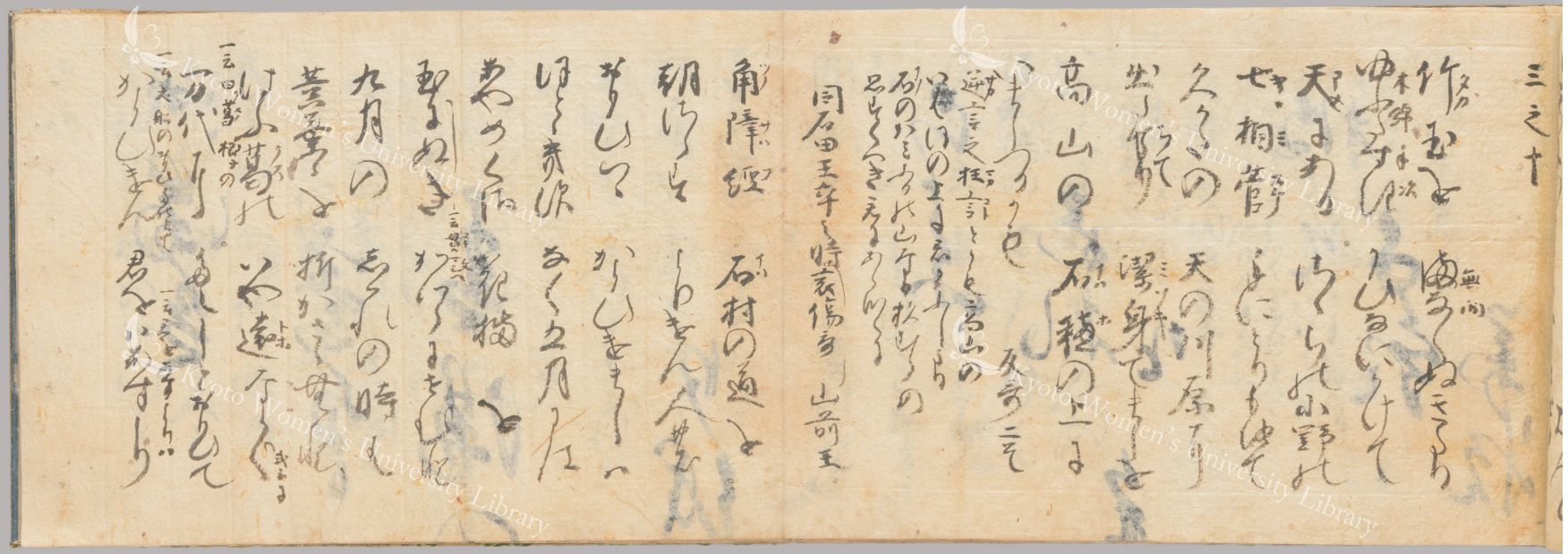


登筑波岳　井序　真人國人

三八九

四二〇

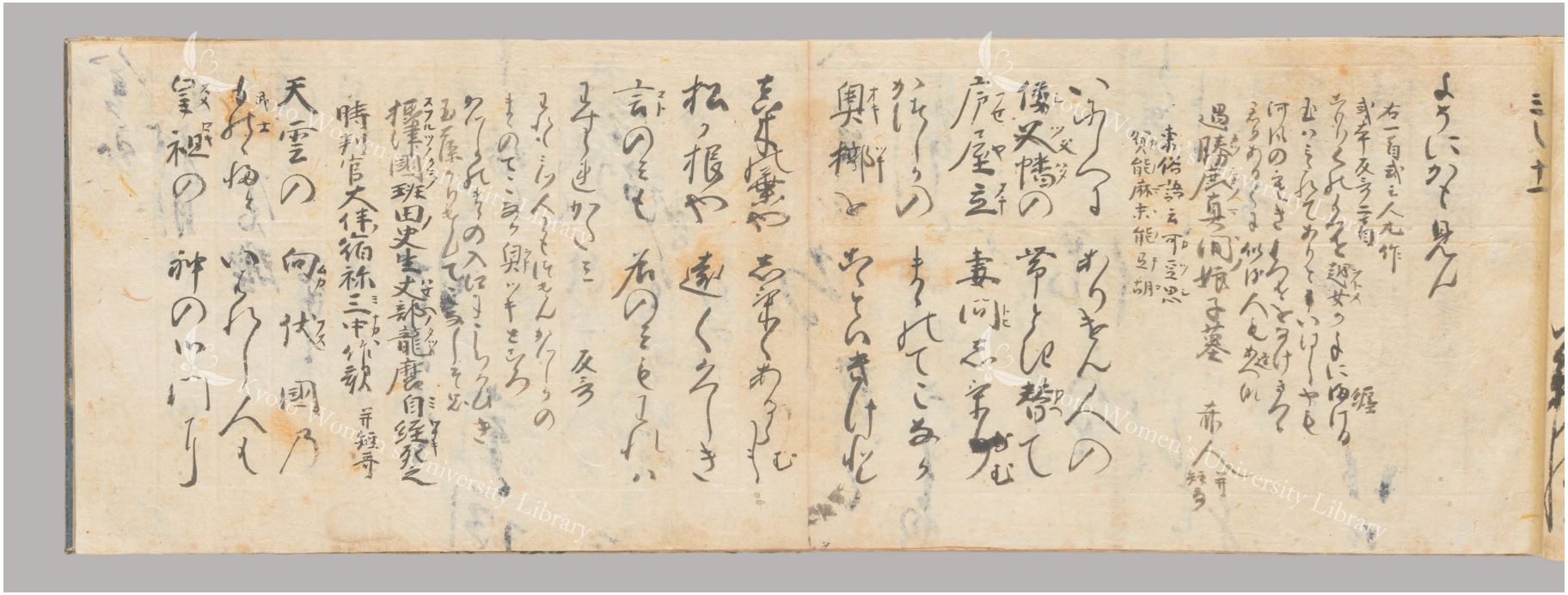




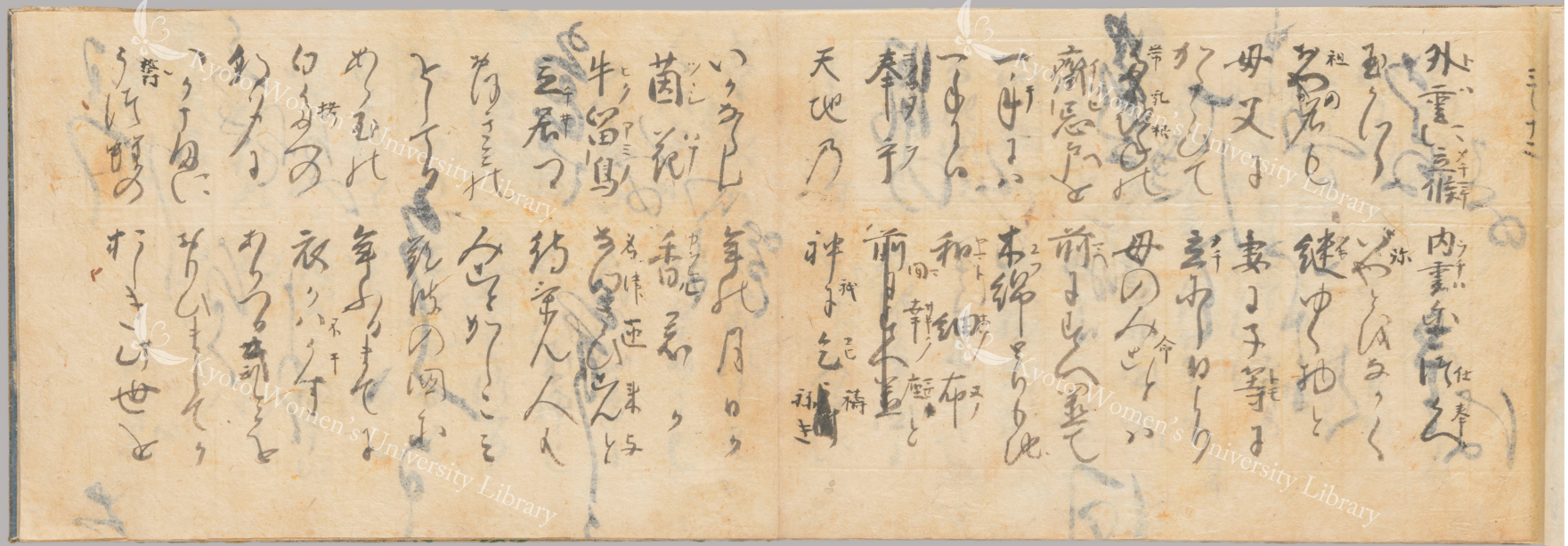
四二一

四二二

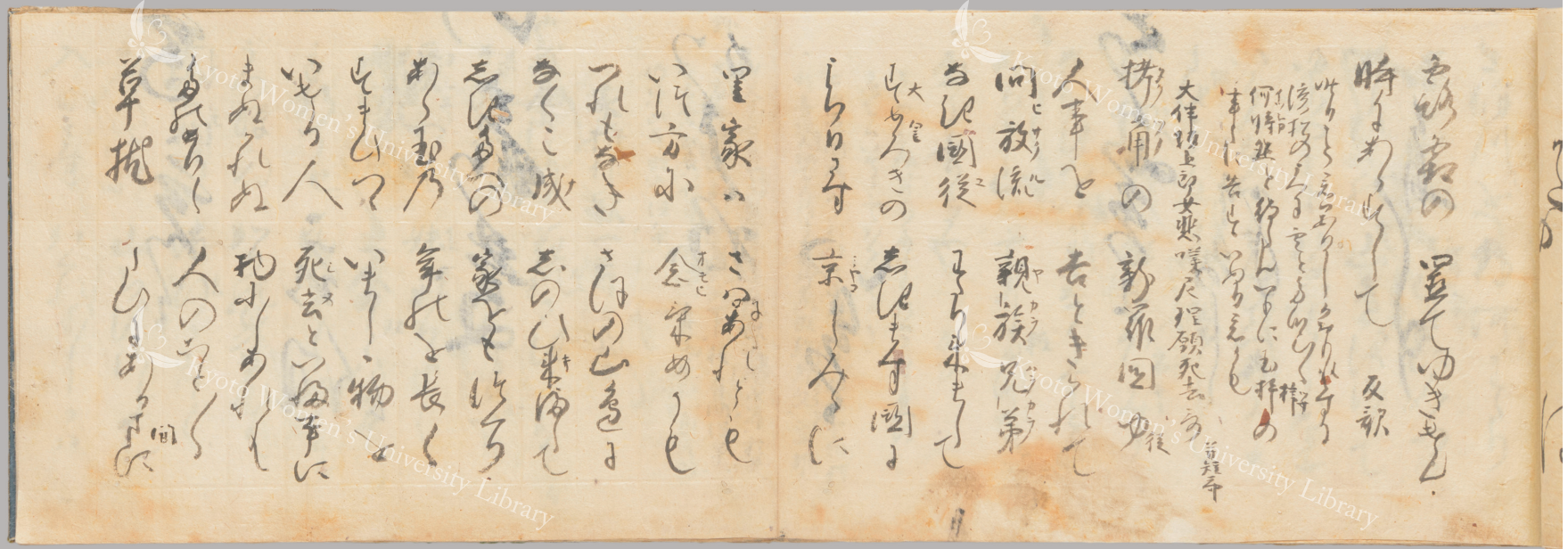
四二三

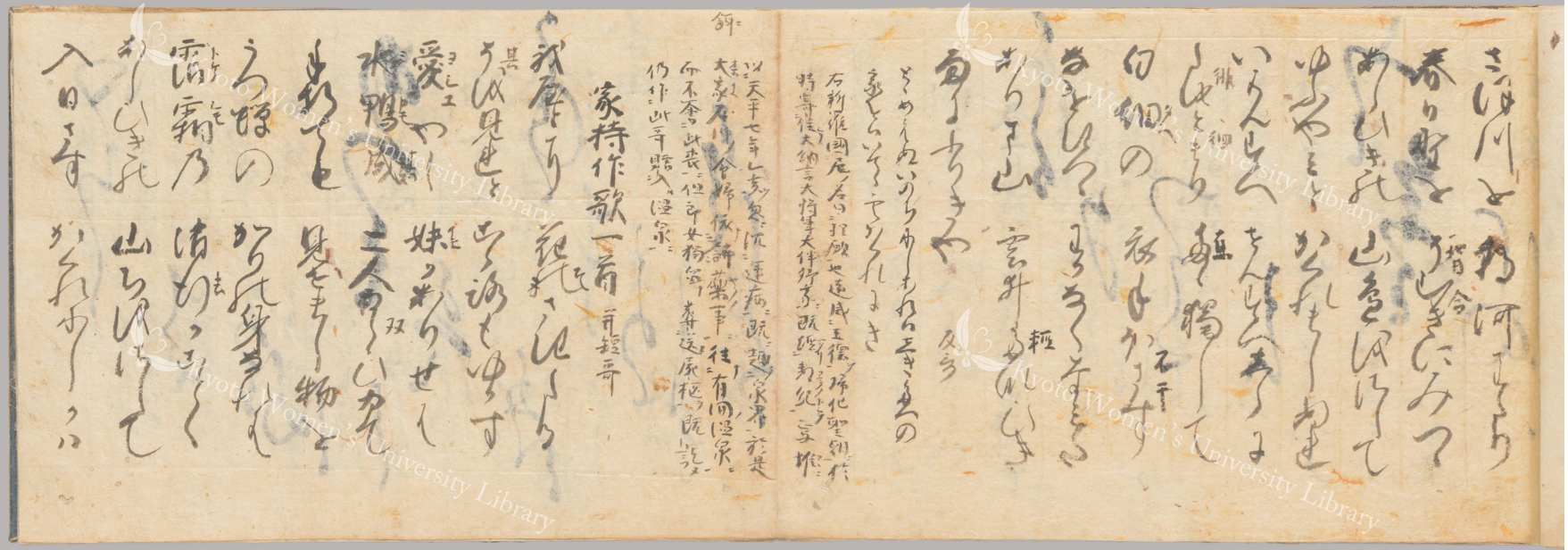


四二四
四二五
四三一
四三二
四三三
四四三

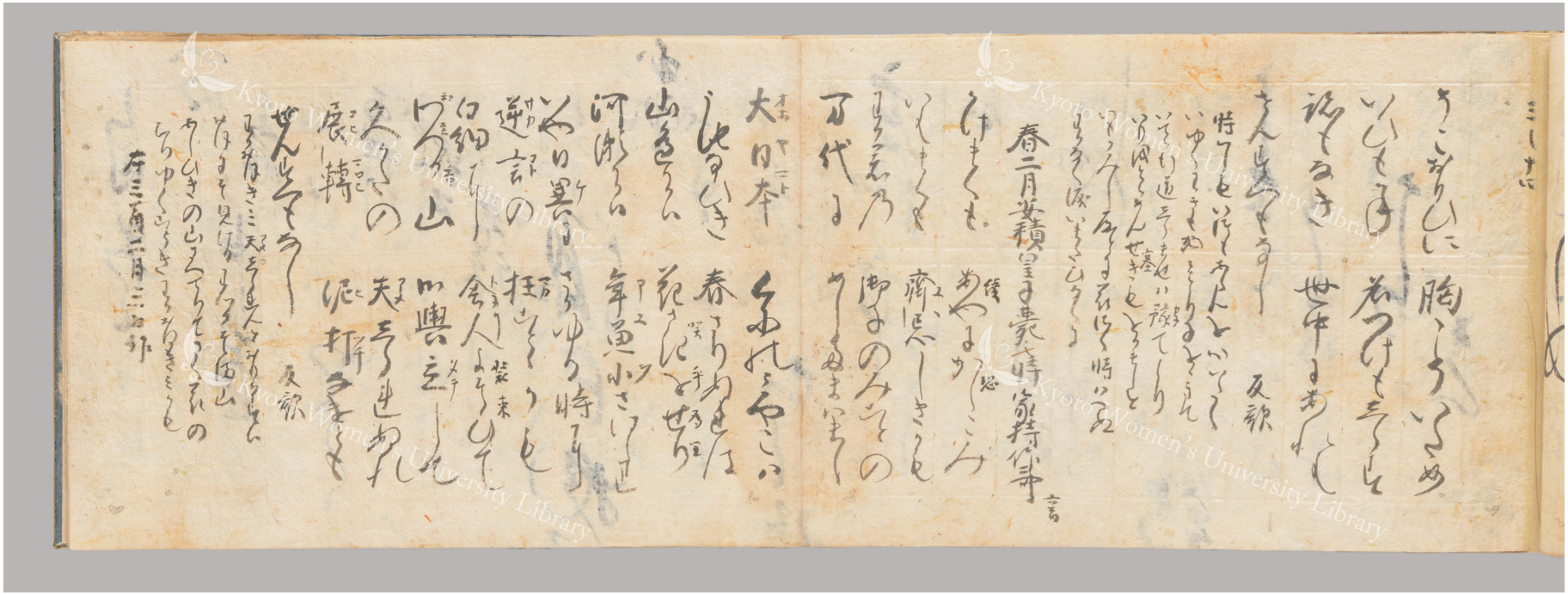


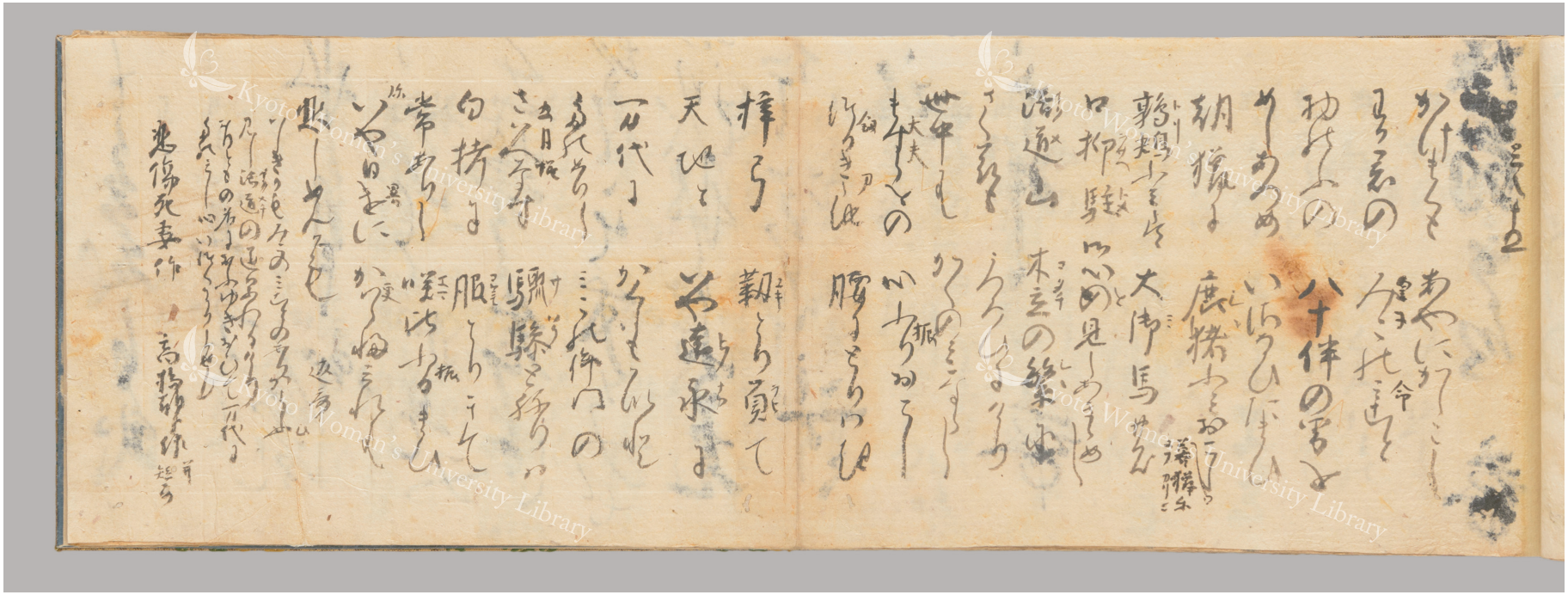
四四四
四四五
四六〇

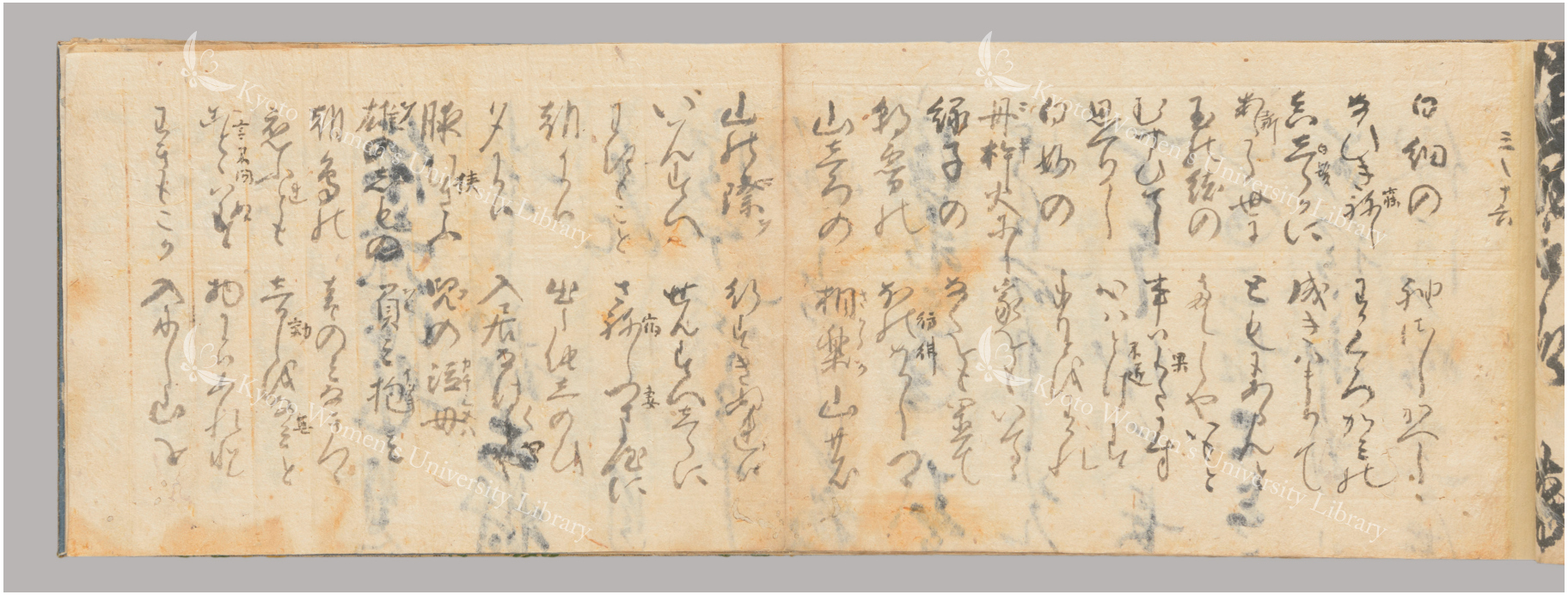




四六七
四六八
四六九
四七五
四七六
四七七

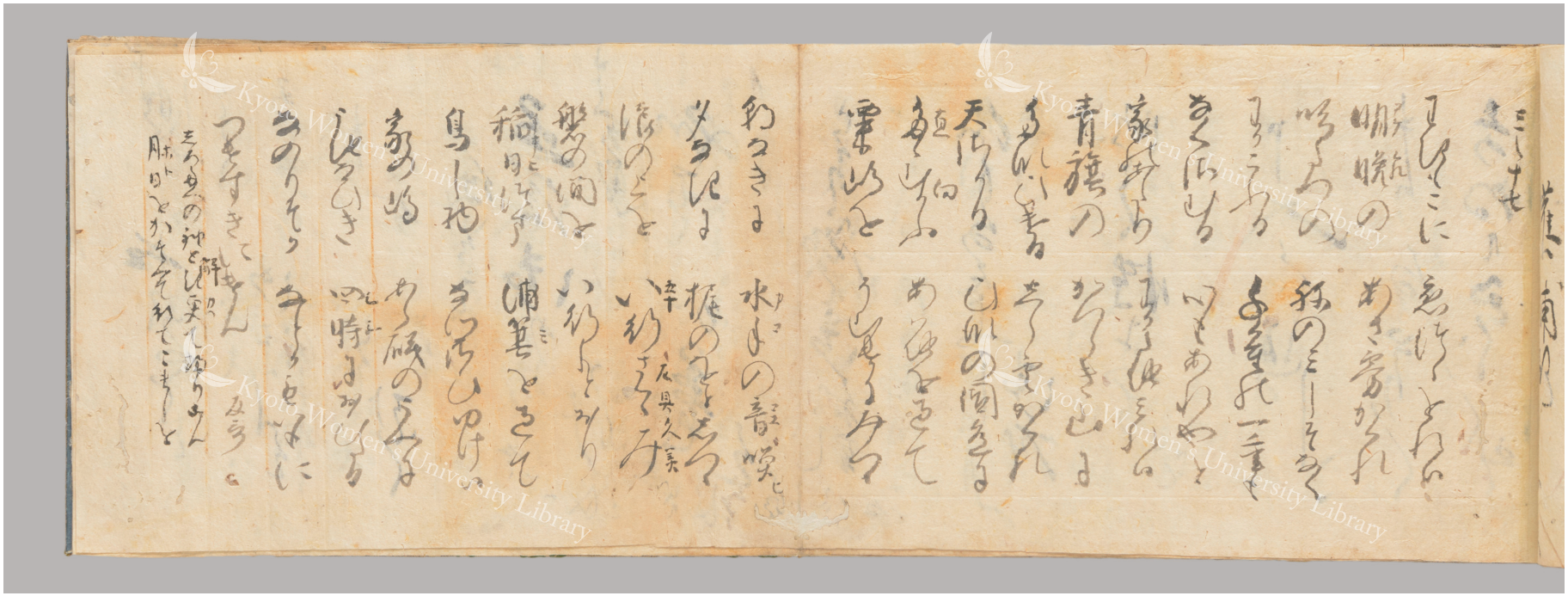






四八二
四八三
四八五
四八六
四八七
五〇九

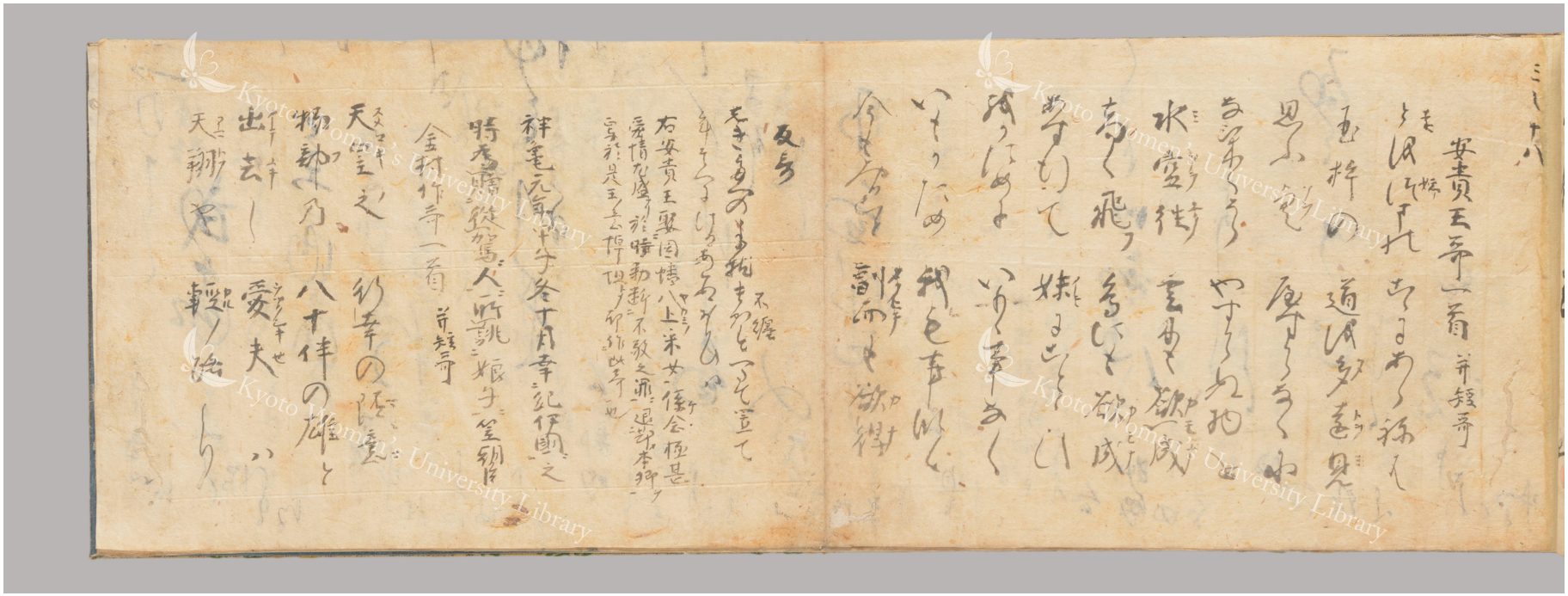
49オ
49ウ



五三四

五三五

五四三



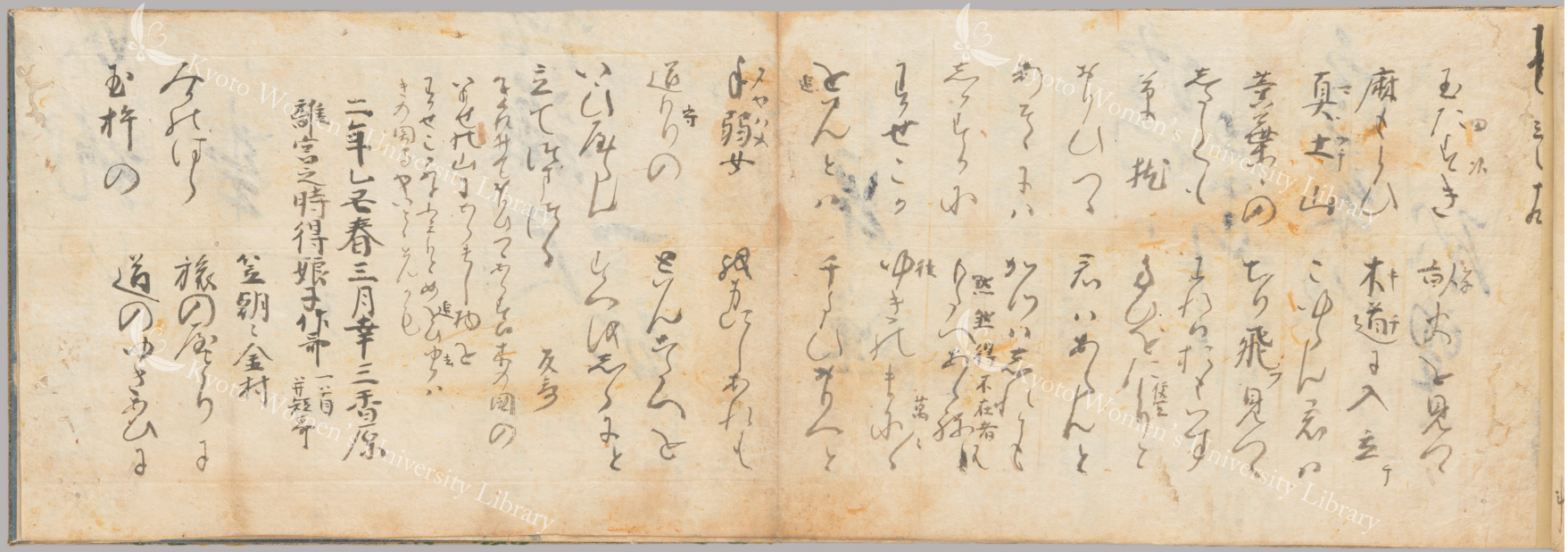
51
オ

51
ウ

五四四

五四五

五四六

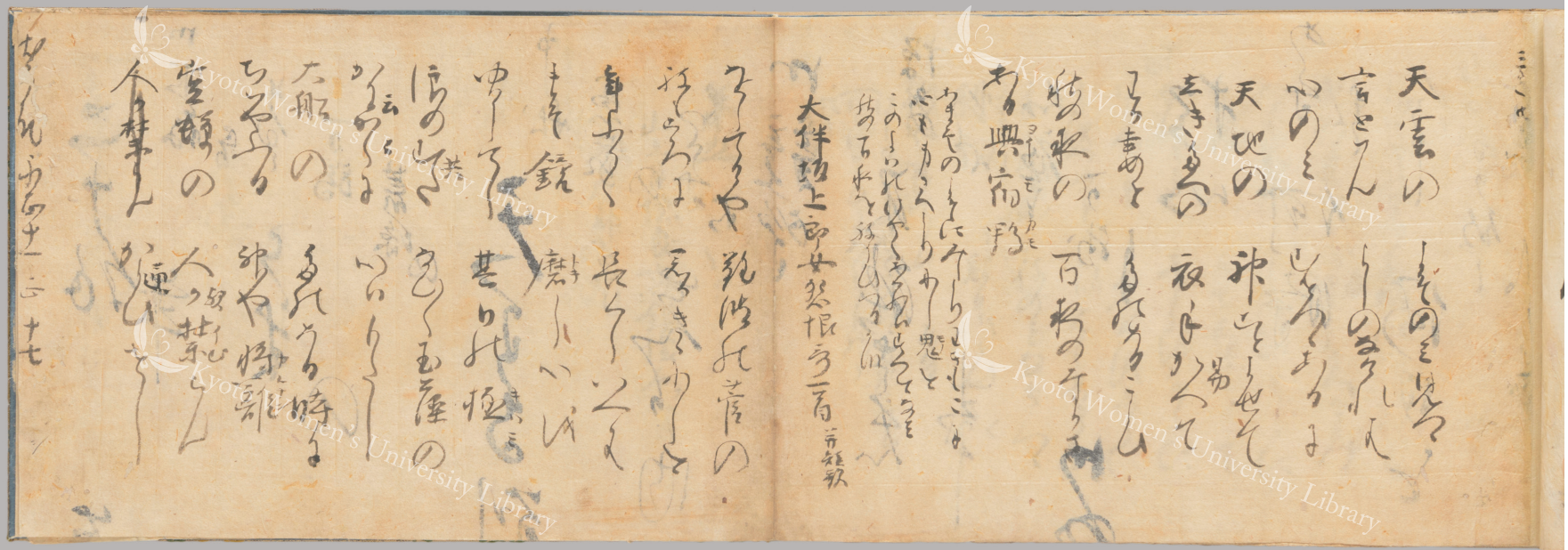


Kyoto Women's University Library

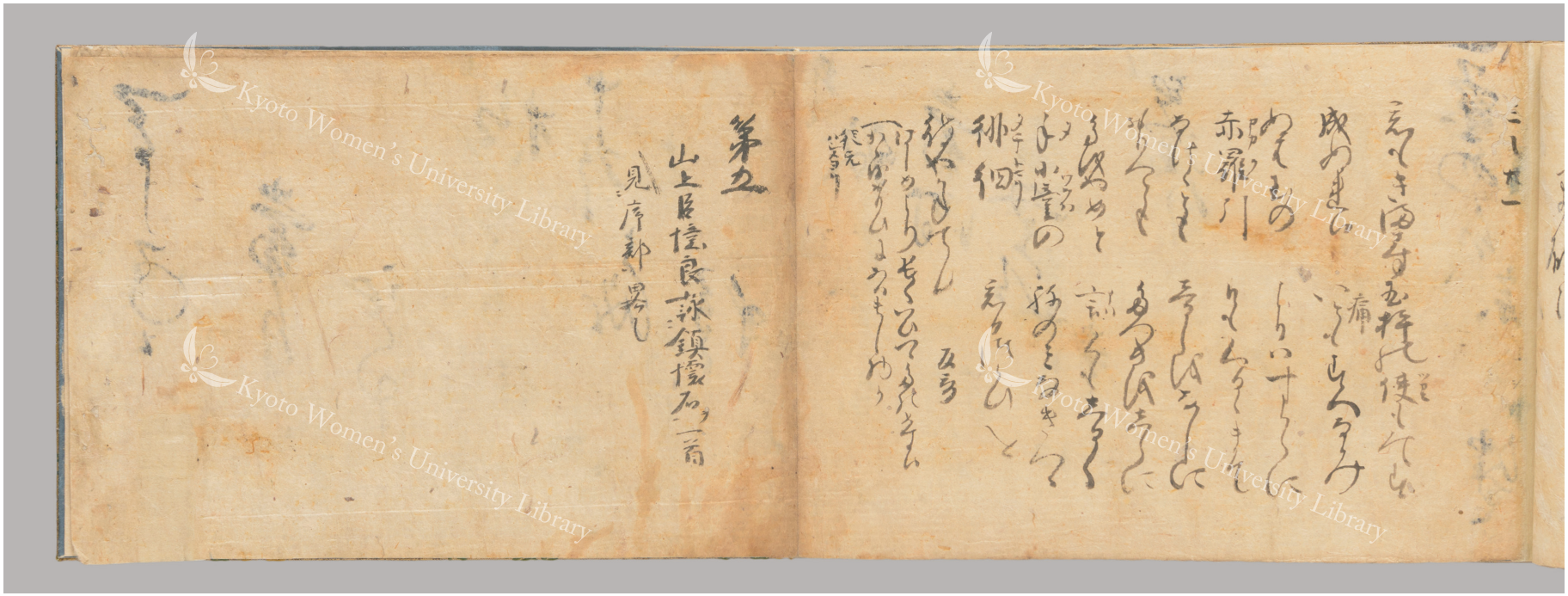
五四七

五四八

六一九



Kyoto Women's University Library



Kyoto Women's University Library

54
ウ

54
オ